



(様式第 10)

聖医大管 第 321 号
令和 2 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ医
理事長 明石 勝也

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
氏 名	学校法人 聖マリアンナ医科大学 理事長 明石 勝也

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

聖マリアンナ医科大学病院

3 所在の場所

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号 電話 (044) 977-8111
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	2消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5神経内科	⑥血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑩リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

② 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑬麻酔科 ⑭救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制 川崎市立多摩病院の歯科口腔外科と連携し、歯科の診療体制を整備している。	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 消化器・肝臓内科 2 代謝・内分泌内科 3 脳神経内科 4 腫瘍内科 5 神経精神科 6 乳腺・内分泌外科 7 形成外科 8 病理診断科 9 リハビリテーション科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
52床	0床	0床	0床	1,123床	1,175床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	606人	188人	614.5人	看 護 補 助 者	118人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	人	人	人	理 学 療 法 士	22人	臨床検査技師	112人
薬 剤 師	83人	0人	83人	作 業 療 法 士	9人	衛生検査技師	0人
保 健 師	87人	1.3人	88.3人	視 能 訓 練 士	9人	そ の 他	0人
助 産 師	44人	0人	44人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1055人	25.9人	1080.9人	臨 床 工 学 士	38人	医療社会事業従事者	15人
准 看 護 師	2人	0人	2人	栄 養 士	2人	その他の技術員	55人
歯科衛生士	0人	0人	0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	278人
管理栄養士	16人	0人	16人	診療放射線技師	73人	その他の職員	0人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	69人	眼 科 専 門 医	9人
外 科 専 門 医	38人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	11人
精 神 科 専 門 医	9人	放 射 線 科 専 門 医	23人
小 児 科 専 門 医	22人	脳 神 経 外 科 専 門 医	7人
皮 膚 科 専 門 医	6人	整 形 外 科 専 門 医	23人
泌 尿 器 科 専 門 医	7人	麻 酔 科 専 門 医	8人
産 婦 人 科 専 門 医	22人	救 急 科 専 門 医	16人
		合 計	270人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大坪 毅人) 任命年月日 令和 2年 4月 1日

業務経験

- 平成29年4月1日より医療安全対策委員長及び医療安全管理担当副院長に就任。

業務内容

- 毎月1回医療安全対策委員会へ出席し審議。
- 院内のインシデント・アクシデント報告を受け、案件により臨時医療安全対策委員会開催を指示。
- 医療安全管理室より案件報告を受け、毎月1回病院としての対応を協議。
- 毎月1回患者相談全記録の確認。
- 全国医学部長病院長会議等からの『医療安全情報』を確認し、当該部署へ情報提供。
- 日本私立医科大学協会の相互ラウンド(当院への訪問)に参加。
- 医療安全関連の教職員研修会に参加。
- 横浜地方裁判所の医療訴訟関係協議会へ出席。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	814人	0人	814人
1日当たり平均外来患者数	2,065人	0人	2,065人
1日当たり平均調剤数			1,330.1剤
必要医師数			205人
必要歯科医師数			0人
必要薬剤師数			28人
必要(准)看護師数			476人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室 <small>(※内訳、下記参照)</small>	784.8 m ²	RC造	病床数	40床	心電計	○・無
			人工呼吸装置	○・無	心細動除去装置	○・無
			その他の救急蘇生装置	○・無	ペースメーカー	○・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 98.88m ² [移動式の場合] 台数 3台		病床数	10床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 40.5m ² [共用室の場合] 共用する室名薬剤部 (TDM室 薬物血中濃度モニタリング室)					
化学検査室	360m ²		(主な設備) フリーザー、浸透圧測定装置、分光光度計、生化学自動分析装置 純水装置、安全キャビネット、乾熱滅菌器、自動分注仕分装置			
細菌検査室	153m ²		(主な設備) 測定機器、フラン器、高圧滅菌器、遠心機、顕微鏡、冷蔵冷凍庫等			
病理検査室	385.96m ²		(主な設備) システムバーコード印字機、自動包埋装置、自動染色装置			
病理解剖室	134.81m ²		(主な設備) 解剖台、高圧滅菌装置、真空パック装置			
研究室	1,874.54m ²		(主な設備) 遠心分離機、超低温フリーザー、顕微鏡、高圧タンク、超純水装置			
講義室	1,547.35m ²		室数	5室	収容定員	1,164人
図書室	1,016.96m ²		室数	1室	蔵書数	140,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

※集中治療室

ICU 7床 145.6 m² (1床当たり 20.8 m²)、3床 67 m² (1床当たり 22.3 m²)、
 CCU 6床 107.8 m² (1床当たり 17.9 m²)、SCU 6床 127.4 m² (1床当たり 21.23 m²)、
 MFICU 6床 106.8 m² (1床当たり 17.8 m²)、NICU 12床 230.2 m² (1床当たり 19.14 m²)

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	93.3%	逆紹介率	82.7%
算出根拠	A: 紹介患者の数		19,290 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,533 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,740 人
	D: 初診の患者の数		23,595 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、明治大学法科大学院教授、山本柴崎法律事務所弁護士	○	日本を代表する民事訴訟法学者であり、医療事故調査委員会外部委員を務めるなど、医療関係の法務についても深い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られているところであり、外部委員としてふさわしい。	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
小林 信秋	認定 NPO 法人 難病のこども支援全国ネットワーク会 会長		文部科学省や厚生労働省の協力委員や検討委員などを歴任され、様々な立場での見識を有し、長年にわたり患者の立場に立った活動を行い、医療機関の倫理委員等を務め、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	有・ 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院医療安全管理部 教授		心臓外科医の指導医として活躍、国立保健医療科学院政策科学部安全科学室長を務め、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部准教授、東京医科大学医療安全管理学講座主任教授を経て現職。インフェクションコントロールドクター(ICD)、日本医療の質・安全学会理事、日本医療・病院管理学会評議員、日本呼吸器外科学会評議員、横浜市立大学病院外部評価委員会委員長を務める。感染制御および医療安全管理業務の経験を有する委員として見識を有している。人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
益子 まり	川崎市非常勤嘱託産業員		小児科医として実務経験後、地域の医療行政を推進、川崎市保健所長を務める。医療現場で医療安	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識

			全に関する法律が適切に実施されているのを監督する立場にあり見識を有する。 当院の医療安全の実施に指導的役割を担ってこられた経験があり、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。		経験を有する者
中尾 智彦	法務・監査室 室長		法人の法務・監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平な立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	その他

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
公表の方法 聖マリアンナ医科大学病院ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	1人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	101人
LDLアフェレシス療法(糖尿病性腎症)	0人
腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法	5人
マルチプレックス遺伝子パネル検査	0人
多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	8	56	ベーチェット病	209
2	筋萎縮性側索硬化症	28	57	特発性拡張型心筋症	132
3	脊髄性筋萎縮症	8	58	肥大型心筋症	210
4	原発性側索硬化症	2	59	拘束型心筋症	2
5	進行性核上性麻痺	18	60	再生不良性貧血	70
6	パーキンソン病	744	61	自己免疫性溶血性貧血	70
7	大脳皮質基底核変性症	15	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	9
8	ハンチントン病	4	63	特発性血小板減少性紫斑病	213
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	18
10	シャルコー・マリー・トゥース病	10	65	原発性免疫不全症候群	37
11	重症筋無力症	173	66	IgA 腎症	407
12	先天性筋無力症候群	2	67	多発性嚢胞腎	152
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	157	68	黄色靱帯骨化症	20
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	69	69	後縦靱帯骨化症	69
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロー・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	71
17	多系統萎縮症	28	72	下垂体性ADH分泌異常症	110
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	97	73	下垂体性TSH分泌亢進症	4
19	ライゾーム病	12	74	下垂体性PRL分泌亢進症	27
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	18
21	ミトコンドリア病	19	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	35
22	もやもや病	47	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	27
23	プリオン病	4	78	下垂体前葉機能低下症	134
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	137	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	2	83	アジソン病	17
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	193
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	261
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	168
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	34
34	神経線維腫症	32	89	リンパ脈管筋腫症	0
35	天疱瘡	55	90	網膜色素変性症	62
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	16	92	特発性門脈亢進症	8
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	11	93	原発性胆汁性胆管炎	281
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	14
40	高安動脈炎	48	95	自己免疫性肝炎	211
41	巨細胞性動脈炎	46	96	クローン病	153
42	結節性多発動脈炎	66	97	潰瘍性大腸炎	558
43	顕微鏡的多発血管炎	152	98	好酸球性消化管疾患	32
44	多発血管炎性肉芽腫症	99	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	70	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	107	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	17	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	15	103	CFC症候群	2
49	全身性エリテマトーデス	1000	104	コステロ症候群	2
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	308	105	チャージ症候群	3
51	全身性強皮症	98	106	クリオピリン関連周期熱症候群	2
52	混合性結合組織病	150	107	若年性特発性関節炎	17
53	シェーグレン症候群	929	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	49	109	非典型溶血性尿毒症症候群	3
55	再発性多発軟骨炎	84	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	3	161	家族性良性慢性天疱瘡	3
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	98
113	筋ジストロフィー	34	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	9	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	27	167	マルファン症候群	9
118	脊髄髄膜瘤	23	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	2	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	2	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	4
122	脳表ヘモジドリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	1
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	13	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	5	179	ウィリアムズ症候群	3
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	1
136	片側巨脳症	1	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	2	187	歌舞伎症候群	3
138	神経細胞移動異常症	10	188	多脾症候群	4
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	4
140	ドラベ症候群	8	190	鯉耳腎症候群	1
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	3	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	193	プラダー・ウィリ症候群	9
144	レノックス・ガストー症候群	14	194	ソトス症候群	6
145	ウエスト症候群	40	195	ヌーナン症候群	4
146	大田原症候群	1	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	1
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1	199	5p欠失症候群	2
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	1	201	アンジェルマン症候群	4
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	5
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	5	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	10	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	17	208	修正大血管転位症	4
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	6
160	先天性魚鱗癬	4	210	単心室症	9

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	8	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	14	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	3	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	48	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	22	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	5	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	8	266	家族性地中海熱	25
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	152	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	3	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	84	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	40
224	紫斑病性腎炎	28	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	7
227	オスラー病	22	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	4
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	2	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	17
234	ベルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	1
235	副甲状腺機能低下症	40	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	8	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	2
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	4	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	4
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	2
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	1	293	総排泄腔遺残	5
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	8
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	12
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	2	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	141
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	2
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	1	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	13
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	60

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	1	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	2	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	1
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	326	大理石骨病	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
314	左肺動脈右肺動脈起始症	1	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0	329	無虹彩症	4
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	22
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャスルマン病	2
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	1
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・別紙施設基準届出状況参照	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

施設基準届出状況

< 基本診療料 >

- オンライン診療料
- 特定機能病入院基本料（一般7対1）
- 特定機能病入院基本料（精神10対1）
- 救急医療管理加算
- 超高齢者集中加算
- 診療録管理体制加算 1
- 医師事務作業補助体制加算1（30対1）
- 急性期看護補助体制加算（25対1）
- 看護職員夜間配置加算1（12対1）
- 重症者等療養環境特別加算
- 無菌治療室管理加算 2
- 緩和ケア診療加算
- 精神科身体合併症管理加算
- 精神科リエゾンチーム加算
- 医療安全対策加算 1
- 感染防止対策加算 1
- 抗菌薬適正使用支援加算
- 患者サポート体制充実加算
- 梅毒・ウイルス患者ケア加算
- ハイルスク妊娠管理加算

< 特掲診療料 >

- 外来栄養食事指導料（注2）
- 遠隔モニタリング加算（ペースメーカー指導管理料）
- がん患者指導管理料 イ
- がん患者指導管理料 ロ
- がん患者指導管理料 ハ
- がん患者指導管理料 ニ
- 外来緩和ケア管理料
- 移植後患者指導管理料 1（臓器移植後の場合）
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 婦人科特定疾患治療管理料
- 院内トリアージ実施料
- 外来放射線照射診療料
- ニコチン依存症管理料
- 療養・就労両立支援指導料
- がん治療連携計画策定料 1
- がん治療連携計画策定料 2
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 医療機器安全管理料 2
- 精神科退院時共同指導料 1・2
- 在宅血液透析指導管理料
- 在宅腫瘍治療電療指導管理料
- 持続血糖測定器加算
- 遺伝学的検査
- 骨髄微小残存病変量測定
- BRCA1/2遺伝子検査
- ガンプロファイル検査
- 先天性代謝異常症検査
- 抗-HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗-HLA抗体（抗体特異性同定検査）
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- 検体検査管理加算（I）
- 検体検査管理加算（IV）
- 国際標準検査管理加算
- 遺伝カウンセリング加算
- 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- 長期脳波ビデオ同時記録検査1
- 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ヘッドアップティルト試験
- 皮下連続式グルコース測定
- 長期連続脳波内脳波検査
- 脳波検査判断料1
- 神経学的検査
- 補聴器適合検査
- ロービジョン検査判断料
- コンタクトレンズ検査料 1
- 小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- センチネルリンパ節生検（片側）
- 経気管支凍結生検法
- 血流予備量比コンピューター断層撮影
- 画像診断管理加算 1
- 画像診断管理加算 3
- CT撮影及びMRI撮影
- 冠動脈CT撮影加算
- 外傷全身CT加算
- 心臓MRI撮影加算
- 乳腺MRI撮影加算
- 頭部MRI撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料（I）
- 脳血管疾患等リハビリテーション料（I）
- 運動器リハビリテーション料（I）
- 呼吸器リハビリテーション料（I）
- がん患者リハビリテーション料
- 通院・在宅精神療法（児童思春期精神科専門管理加算）
- 通院・在宅精神療法（療養生活環境整備指導加算）
- 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
- 医療保護入院等診療料
- 多血小板血漿処置
- 人工腎臓
- 皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
- 網膜拡張剤による再建手術（一連につき）（乳癌（再建手術）の場合に限る。）

- ハイルスク分焼管理加算
- 呼吸ケアチーム加算
- 後発医薬品使用体制加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 2
- データ提出加算 2及び4
- 入退院支援加算 1・3（地域連携診療計画加算/入院時支援加算/総合機能評価加算）
- 認知症ケア加算1
- 精神疾患診療体制加算
- 地域医療体制確保加算
- 救命救急入院料 1
- 救命救急入院料 4
- 特定集中治療室管理料 3
- ハイケアユニット入院医療管理料1
- 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- 総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児）
- 総合周産期特定集中治療室管理料（新生児）
- 新生児治療回復入院医療管理料
- 小児入院医療管理料 1
- 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものを除く。）））
- 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
- 椎間板内静脈注入療法
- 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
- 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
- 緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
- 網膜再建術
- 人工内耳植込術、植込型骨導聴器移植術及び植込型骨導聴器交換術
- 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）
- 鏡視下頭頸悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
- 鏡視下頭頸悪性腫瘍手術
- 乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算 1 又は乳がんセンチネルリンパ節加算 2 を算定する場合に限る。）
- 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
- グルア充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
- 肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横膈膜、心膜併切除を伴うもの）に限る。）
- 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔縫合閉鎖術、胃腸閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸腸閉鎖術（内視鏡によるもの）、経腸腸閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腫瘍閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸閉鎖術（内視鏡によるもの）、嚥下嚥閉鎖術（内視鏡によるもの）
- 経皮的動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
- 経カテーテル大動脈弁置換術
- 経皮的僧帽弁クリップ術
- 不整脈手術（左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）に限る。）
- 経皮的中隔心筋焼灼術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
- 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
- 両室ペースリング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースリング機能付き植込型除細動器交換術
- 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- 経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
- 補助人工心臓
- 経皮的下肢動脈形成術
- 腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
- バルーン閉塞下逆行性経静脈の塞栓術
- 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
- 腹腔鏡下肝切除術
- 腹腔鏡下腫瘍摘出術及び腹腔鏡下肝切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 腹腔鏡下小切開胆管摘出術
- 腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
- 同種死体腎移植術
- 生体腎移植術
- 腹腔鏡下小切開膵膵悪性腫瘍摘出術
- 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
- 胎児胸腔・羊水腔シャント術
- 胃腸造設術（内視鏡下胃腸造設術、腹腔鏡下胃腸造設術を含む。）
- 輸血管理料 1
- 自己クリオプレシビート作製術（用手法）及び同種クリオプレシビート作製術
- 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- 胃腸造設時嚥下機能評価加算
- 麻酔管理料（I）
- 麻酔管理料（II）
- 放射線治療専任加算
- 外来放射線治療加算
- 高エネルギー放射線治療
- 1回線量増加加算
- 強度変調放射線治療（IMRT）
- 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
- 体外照射呼吸性移動対策加算
- 定位放射線治療
- 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
- 画像誘導密封小線源治療加算
- 病理診断管理加算 2
- 悪性腫瘍病理組織標本加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	VEGF治療耐性を惹起するエピジェネティクスの解明	高木 均	眼科	700,000	補委	(独)日本学術振興会
2	視神経軸索障害におけるオートファジーを含む代謝処理機能不全の機構解明	北岡 康史	眼科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
3	p38-p62シグナル阻害を介した視神経軸索保護機構解明	佐瀬 佳奈	眼科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
4	薬剤耐性菌制御における腸内細菌フローラに関する探索研究	國島 広之	感染制御部	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
5	AYA世代がん患者に対する性腺組織凍結技術を用いた新たな生殖医療技術の開発	鈴木 直	産婦人科	3,800,000	補委	(独)日本学術振興会
6	カニクイザルを用いた危機的産科出血に対する子宮動脈塞栓術の基礎的研究	五十嵐 豪	産婦人科	200,000	補委	(独)日本学術振興会
7	高周波超音波プローブと母体血清マーカーを用いた癒着胎盤の診断に関する研究	長谷川 潤一	産婦人科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
8	光干渉断層計を用いた最適組織選択による効果的卵巣組織移植法の開発	高江 正道	産婦人科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
9	若年卵巣悪性腫瘍の抗がん治療と卵巣機能温存の両立を目指した新規治療の開発	黄 志芳	産婦人科	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
10	分子標的薬が妊孕性に及ぼす影響の解析	白石 絵莉子	産婦人科	1,700,000	補委	(独)日本学術振興会
11	めまいリハビリテーションへの応用を目的とした前庭動眼反射の可塑性の検討	肥塚 泉	耳鼻咽喉科	100,000	補委	(独)日本学術振興会
12	難治性中耳炎に対する細胞シート治療の普及に向けた新規作製法の確立	谷口 雄一郎	耳鼻咽喉科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
13	血管内視鏡を用いた経皮的心房中隔欠損症閉鎖術後における閉鎖栓の内膜被覆度の評価	田邊 康宏	循環器内科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
14	乳癌患者に対する3次元心エコー図を用いた薬剤性心筋症スクリーニング方法の確立	出雲 昌樹	循環器内科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
15	大規模DPCデータを用いた疫学研究～大気汚染が与える心疾患発症と奪う医療費	米山 喜平	循環器内科	100,000	補委	(独)日本学術振興会
16	たこつぼ症候群患者に対する運動療法の再発予防効果	明石 嘉浩	循環器内科	600,000	補委	(独)日本学術振興会
17	GLP-1受容体活性化による2型糖尿病のサルコペニア予防効果とメカニズムの解明	池森 敦子	腎臓・高血圧内科	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
18	ポリコムグループタンパク質に着目した急性腎障害治療の可能性	市川 大介	腎臓・高血圧内科	300,000	補委	(独)日本学術振興会

小計:18

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
19	臨床検体から同定したピロリ菌ゲノム異常の時空間的な解明に基づく胃癌の革新的制御	山本 博幸	消化器・肝臓内科	7,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
20	ウイルスゲノム組み込みと生体機能情報のリアルタイム血中可視化による革新的肝癌制御	伊東 文生	消化器・肝臓内科	7,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
21	ヒト門脈血液中に検出する細菌種解析による肝疾患形成の解明	渡邊 綱正	消化器・肝臓内科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
22	フリーラン自発筋電図による定量的モニタリングの開発	後藤 哲哉	脳神経外科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
23	HAMのHTLV-1感染細胞の異常形質を規定するゲノム・エピゲノム制御機構の解析	山野 嘉久	脳神経内科	5,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
24	狭窄性頸動脈病変の診断におけるSMI超音波の有用性に関する観察研究	萩原 悠太	脳神経内科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
25	HAM患者に対する抗CCR4抗体療法の最適化に関する研究	佐藤 知雄	脳神経内科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
26	顕微鏡的多発血管炎の新規バイオマーカー・治療標的候補血清ペプチドの網羅的解析	鈴木 真奈絵	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
27	Layilinを中心とした関節リウマチの滑膜細胞増殖・活性化の機構解明	加藤 智啓	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
28	炎症と骨吸収に関与するIL-34は関節リウマチの治療の標的分子となりうるのか？	永淵 裕子	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	700,000	補委	(独) 日本学術振興会
29	自己免疫疾患における新規T細胞及びB細胞サブセットの動態及び機能解析	今村 充	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
30	メカニカルストレスに対する軟骨細胞の応答機構の解明と軟骨変性の治療法開発への応用	遊道 和雄	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
31	プレオマイシンと免疫チェックポイント阻害薬の併用による悪性黒色腫の治療	門野 岳史	皮膚科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
32	性犯罪のリスクのある障がい者の社会インテグレーション	安藤 久美子	神経精神科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
33	胎児期尿路閉塞・胎児胸水に用いる機能温存型穿刺型シャントチューブキットの開発	北川 博昭	小児外科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
34	自己細胞を用いた再生気管の臨床応用に向けて	小島 宏司	呼吸器外科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
35	尿路上皮癌における癌幹細胞性に着目した新規治療戦略の確立	菊地 栄次	腎泌尿器外科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
36	miR195-5pを用いた膀胱癌に対する革新的膀胱内注入療法の開発	佐々木 秀郎	腎泌尿器外科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
37	微弱電流および高気圧酸素は損傷骨格筋の筋力回復を促進させるか	藤谷 博人	整形外科	300,000	補委	(独) 日本学術振興会

小計:19

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
38	重度末梢神経障害治療を可能とするHybrid Vein Wrapping法の開発	村上 賢一	整形外科	700,000	補委	(独)日本学術振興会
39	乳癌・卵巣癌治療の分子基盤としてのグアニン4重鎖解除機構の解析	太田 智彦	乳腺・内分泌外科	4,300,000	補委	(独)日本学術振興会
40	病院前心肺蘇生法術における脳組織酸素飽和度と自己心拍再開率の関係についての検討	津久田 純平	救命救急センター	600,000	補委	(独)日本学術振興会
41	他施設レジストリに基づく院内救急体制の質改善と早期警告スコアの開発	内藤 貴基	救命救急センター	800,000	補委	(独)日本学術振興会
42	一酸化炭素(CO)中毒に対する新しい治療法としての光照射	平 泰彦	救命救急センター	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
43	軟骨炎症性疾患の診断と治療体系の確立	鈴木 登	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	3,000,000	補委	厚生労働省
44	小児救急医療体制の品質評価・最適化・情報発信のための小児救急医療統合情報システムの開発研究	清水 直樹	小児科	3,870,000	補委	厚生労働省
45	てんかんの地域診療連携体制の推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究	山本 仁	小児科	11,540,000	補委	厚生労働省
46	保健・医療関連行為に関する国際分類の我が国への適用のための研究	川瀬 弘一	小児外科	2,600,000	補委	厚生労働省
47	がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化に向けた臨床研究-がん医療の充実を志向して	鈴木 直	産婦人科	9,200,000	補委	厚生労働省
48	小児・AYA世代がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の均てん化に向けた臨床研究	鈴木 直	産婦人科	15,000,000	補委	厚生労働省
49	HAMならびに類縁疾患の患者レジストリを介した診療連携モデルの構築によるガイドラインの活用促進と医療水準の均てん化に関する研究	山野 嘉久	脳神経内科	11,700,000	補委	厚生労働省
50	慢性活動性EBウイルス感染症を対象としたJAK1/2阻害剤ルキシニブの医師主導治験	新井 文子	血液腫瘍内科	53,480,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
51	治験の実施に関する研究[トシリズムマップ]	川畑 仁人	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	304,644	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
52	高度腹膜転移胃癌に対する標準化学療法法の確立に関する研究	中島 貴子	腫瘍内科	11,215,375	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
53	高度催吐性リスクのがん化学療法におけるDEX(steroid) sparing に関する研究	中島 貴子	腫瘍内科	17,100,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
54	慢性めまいの診断法確立とめまい指導の有用性に関する研究	肥塚 泉	耳鼻咽喉科	3,906,285	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計:17

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
55	クリゾチニブの再発又は難治性小児ALK(anaplastic lymphoma kinase)陽性未分化大細胞型リンパ腫(anaplastic large cell lymphoma,ALCL)に対する第I/II相および再発又は難治性神経芽腫に対する第I相医師主導治験	森 鉄也	小児科	42,279,685	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
56	生殖能を有する者に対する医薬品の適正使用に関する情報提供のあり方の研究	鈴木 直	産婦人科	4,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
57	HAMの革新的治療となる抗CCR4抗体製剤のコンパッションネートユースによる長期投与試験	山野 嘉久	脳神経内科	58,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
58	HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の診療ガイドラインに資する統合的レジストリの構築によるエビデンスの創出	山野 嘉久	脳神経内科	12,195,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
59	HAMの治療薬開発を促進する代替エンドポイントとしてのバイマオーカーの実用化研究	山野 嘉久	脳神経内科	20,140,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
60	高リスクER陽性乳がんの内分泌療法耐性機序解明に基づく診断法と薬物療法の開発	太田 智彦	乳腺・内分泌外科	13,578,462	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
61	腎負荷を低減したDual Excretion型X線造影剤の開発	松本 伸行	消化器・肝臓内科	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
62	人工知能を用いた脳梗塞急性期のCT画像読影に関する研究	櫻井 謙三	脳神経内科	2,550,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計:8
合計:62

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takuro Mizukami, Naoki Izawa, Takako Eguchi Nakajima 他	腫瘍内科	Targeting EGFR and RAS/RAF Signaling in the Treatment of Metastatic Colorectal Cancer: From Current Treatment Strategies to Future Perspectives.	Drugs 79巻6号 P633-645 2019年4月	Review
2	Naoki Izawa, Yu Sunakawa, Ayako Doi 他	腫瘍内科	Clinical Implications of Decreased Computed Tomography Value after Ramucirumab in Advanced Gastric Cancer	Oncology97巻2号 P94-101 2019年6月	Original Article
3	Yukinori Okada, Syoichiro Matsushita, Yasuo Nakajima 他	放射線科	Comparison of diagnostic precision for bone metastasis of primary breast cancer between BONENAVI version 1 and BONENAVI version 2.	Nuclear medicine communications40巻11号 P1148-1153 2019年11月	Original Article
4	Yukihisa Ogawa, Hiroshi Nishimaki, Tomotaka Iraha 他	放射線科	Endovascular Neck Stabilization Before EVAR for Infrarenal Aortic Aneurysm in Chronic Aortic Dissection	Cardiovascular Interventional Radiology42 巻10号P1483-1487 2019年 10月	Others
5	Yukihisa Ogawa, Hiroshi Nishimaki, Keishi Fujiwara 他	放射線科	A novel technique for the treatment of type 2 endoleak after endovascular aortic repair: Sac Embolization with Balloon Occlusion of the Aorta (SEBOA)	Cardiovascular and Interventional Radiology42 巻10号P1488-1493 2019年 10月	Others
6	Tomita H, Kuno H, Sekiya K 他	放射線科	Quantitative Assessment of Thyroid Nodules Using Dual-Energy Computed Tomography: Iodine Concentration Measurement and Multiparametric Texture Analysis for Differentiating between Malignant and Benign Lesions	Int J Endocrinol2020 P1-8 2020年3月 (オンライン)	Original Article
7	Mimura H, Akita S, Fujino A 他	放射線科	Japanese clinical practice guidelines for vascular anomalies 2017.	Japanese journal of Radiology62巻3号257-304 2020年3月	Original Article
8	Yukihisa Ogawa, Chun W. Choi, Yasuhiro Shodo 他	放射線科	Successful orthotropic heart transplantation in a patient with Marfan syndrome	Journal of Cardiac Surgery34巻9号P875-876 2019年9月	Case report
9	Yukihisa Ogawa, A. Claire Watkins, Bharathi Lingala 他	放射線科	Improved mid-term outcomes following endovascular repair of non-traumatic descending thoracic aortic rupture compared to open surgery	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2019年11月 (オンライン)	Original Article
10	Shinya Tajima, Ichiro Maeda, Keiko Kishimoto 他	病理診断科	Malignant Intraductal Lesions in the Breast: Mini-Review	BIOMEDICAL Journal of Scientific & Technical Research P12533-12534 2019年4月 (オンライン)	Others
11	Shinya Tajima, Ichiro Maeda, Keiko Kishimoto 他	病理診断科	Intraductal papilloma of the breast: Short-review	Clinical Investigation9巻3号 P107-110 2019年10月	Review
12	Hagiwara Y, Saito Y, Ogura H 他	脳神経内科	Ultrasound-Guided Needle Aspiration of Peritonsillar Abscesses: Utility of Transoral Pharyngeal Ultrasonography	Diagnostics9巻4号 P141 2019年10月	Case report

小計:12

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
13	Shiraishi M, Maki F, Sasaki N 他	脳神経内科	Problems Associated with Non-Ergot Dopamine Agonist Maintenance Therapy in Patients with Advanced Parkinson's Disease	Advance in Parkinson's Disease8巻3号 P35-41 2019年8月	Original Article
14	Shiraishi M, Isahaya K, Hasegawa Y	脳神経内科	Usefulness of enteral nutrition intake containing median-chain fatty acids in Parkinson's disease	Advanced in Parkinson's Disease8巻1号 P1-7 2019年2月	Original Article
15	Akiyama H, Nukui S, Hasegawa Y	脳神経内科	Barriers to continued administration of direct oral anticoagulants between acute hospital and subacute or chronic hospitals and geriatric health services facilities in Japan	Hospital Practice47巻5号 P249-253 2019年12月	Original Article
16	Hagiwara Y, Shimizu T, Hoshino M 他	脳神経内科	The utility of superb-microvascular imaging for evaluating the full length of carotid artery stents	J Clin Ultrasound47巻4号 P239-242 2019年5月	Case report
17	Shimizu T, Kashima S, Akiyama H 他	脳神経内科	The ASCOD Phenotyping of Embolic Strokes of Undetermined Source	J Stroke Cerebrovasc Dis 29巻2号 104491 2020年2月 (オンライン)	Original Article
18	Shiraishi M, Hasegawa Y, Narita N 他	脳神経内科	Relationship Between Asymptomatic Intracranial Stenosis and Extracranial Arteriosclerotic Findings in Workplace Health Checkups: A Pilot Study	J Stroke Cerebrovasc Dis28巻9号 P2429-2433 2019年9月	Original Article
19	Yanagisawa T, Mizukami H, Akiyama H 他	脳神経内科	Recurrent Cerebral Hemorrhage Associated with Ulcerative Colitis	J. St. Marianna Univ.10巻2 号 P115-121 2019年12月	Case report
20	Araga T, Shiraishi M, Hasegawa Y	脳神経内科	Video Pupillometric Evaluation of the Pupillary Reflex as a Test for the Clinical Manifestations of Parkinson's Disease	Journal of St. Marianna University10巻2号 P19-26 2019年12月	Original Article
21	Nukui S, Akiyama H, Soga K 他	脳神経内科	Risk of Hyperglycemia and Hypoglycemia in Patients with Acute Ischemic Stroke Based on Continuous Glucose Monitoring	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases28巻12号 104346 2019年12月 (オンライン)	Original Article
22	Hagiwara Y, Takao N, Takada T 他	脳神経内科	Contrast-enhanced carotid ultrasonography and MRI plaque imaging to identify patients developing in-stent intimal hyperplasia after carotid artery stenting	Medical Ultrasonography21 巻2号 P170-174 2019年5 月	Original Article
23	Akiyama H, Hasegawa Y	脳神経内科	Effectiveness of the traditional Japanese Kampo medicine Yokukansan for chronic migraine	Medicine(Baltimore)98巻36 号 e17000 2019年9月	Case report
24	Hoshino M, Akiyama H, Kashima S 他	脳神経内科	Acute onset bilateral hearing loss in dorsomedial pontine hemorrhage	Medicine (Baltimore)98巻34 号 e16902 2019年8月	Case report
25	Nakano MH, Udagawa C, Shimo A 他	乳腺・内分泌外科	A Genome-Wide association study identifies five novel genetic markers for Trastuzumab-Induced cardiotoxicity in Japanese population.	Biological & pharmaceutical bulletin42巻12号 P2045- 2053 2019年10月	Original Article
26	Ishii Satoshi, Nagai Yoshio, Kato Hiroyuki 他	代謝・内分泌内科	Effects of the Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor Sitagliptin on Muscle Mass and the Muscle/Fat Ratio in Patients With Type 2 Diabetes	Journal of Clinical Medicine Research12巻2号 P122- 126 2020年2月	Original Article
27	Nakamura Yuta, Nagai Yoshio, Kobayashi Toshio 他	代謝・内分泌内科	Characteristics of Gut Microbiota in Patients With Diabetes Determined by Data Mining Analysis of Terminal Restriction Fragment Length Polymorphisms	Journal of Clinical Medicine Research11巻6号 P401- 406 2019年6月	Original Article

小計:15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
28	Nagai Yoshio, Fukuda Hisashi, Kawanabe Shin 他	代謝・内分泌内科	Differing Effect of the Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitor Ipragliflozin on the Decrease of Fat Mass vs. Lean Mass in Patients With or Without Metformin Therapy	Journal of Clinical Medicine Research11巻4号 P297-300 2019年4月	Original Article
29	Akazawa T, Kotani T, Sakuma T 他	整形外科	MRI evaluation of dural sac enlargement by interspinous process spacers in patients with lumbar spinal stenosis: does it play a role in the long term?	Journal of Orthopaedic Science24巻6号 P979-984 2019年11月	Original Article
30	Akazawa T, Umehara T, Iinuma M 他	整形外科	Spinal alignments of residual lumbar curve affect the disc degenerations after spinal fusion in the patient with adolescent idiopathic scoliosis: follow-up after 5 or more years.	Spine Surgery and Related Research4巻1号 P50-56 2020年1月	Original Article
31	Akazawa T, Iinuma M, Kuroya S 他	整形外科	Thoracic deformity correction and changes of vital capacity, forced expiratory volume in 1 second, and expiratory flow in adolescent idiopathic scoliosis 5 years or longer after posterior spinal fusion with thoracoplasty	Spine Surgery and Related Research3巻3号 P222-228 2019年7月	Original Article
32	Kikuchi Eiji, Hayakawa Nozomi, Fukumoto Keishiro 他	腎泌尿器外科	Bacillus Calmette-Guérin-unresponsive non-muscle-invasive bladder cancer: Its definition and future therapeutic strategies.	International journal of urology27巻2号 P108-116 2020年2月	Review
33	Nakazawa Ryuto, Yoshiike Miki, Nozawa Shiari 他	腎泌尿器外科	Clinically useful limited sampling strategy to estimate area under the concentration-time curve of once-daily tacrolimus in adult Japanese kidney transplant recipients.	PLoS one14巻12号 e0225878 2019年12月 (オンライン)	Original Article
34	Tanabe J, Ogura Y, Kosaki K 他	腎臓・高血圧内科	Relationship between urinary liver-type fatty acid-binding protein (L-FABP) and sarcopenia in spontaneously diabetic Torii fatty rats.	Journal of Diabetes ResearchVolume 2020 Article ID 7614035 2020年1月 (オンライン)	Original Article
35	Tanabe J, Ogura Y, Nakabayashi M 他	腎臓・高血圧内科	The possibility of urinary L-type fatty acid binding protein as a biomarker of renal hypoxia in spontaneously diabetic Torii fatty rats.	KIDNEY & BLOOD PRESSURE RESEARCH44巻6号 P1476-1492 2019年11月	Original Article
36	Sayaka Kuroya, Masahiko Yazawa, Yugo Shibagaki 他	腎臓・高血圧内科	Calcium-alkali syndrome in patients with hypoparathyroidism after total thyroidectomy: a single-center retrospective study.	American Journal of Nephrology51巻2号 P160-167 2020年2月	Case report
37	Yoko Fujita, Maho Terashita, Masahiko Yazawa 他	腎臓・高血圧内科	Eculizumab for Severe Thrombotic Microangiopathy Secondary to Surgical Invasive Stress and Bleeding	Internal medicine59巻1号 P93-99 2020年1月	Case report
38	Shohei Yamada, Masahiko Yazawa, Makoto Yamamoto 他	腎臓・高血圧内科	A case of biopsy-proven oxaliplatin-induced acute tubulointerstitial nephritis with thrombocytopenia and anemia.	CEN Case Rep.8巻3号 P188-193 2019年8月	Case report
39	Yoko Fujita, Maho Terashita, Masahiko Yazawa 他	腎臓・高血圧内科	Eculizumab for Severe Thrombotic Microangiopathy Secondary to Surgical Invasive Stress and Bleeding: A Case Report	Internal Medicine59巻1号 P93-99 2020年1月	Case report
40	Kuroya S, Yazawa M, Shibagaki Y 他	腎臓・高血圧内科	Calcium-alkali syndrome associated with hypoparathyroidism following total thyroidectomy	American Journal of Nephrology51巻2号 P160-167 2020年1月	Original Article
41	Shinji Machida, Yugo Shibagaki, Tsutomu Sakurada 他	腎臓・高血圧内科	An inpatient educational program for chronic kidney disease.	Clinical and Experimental Nephrology23巻4号 P493-500 2019年4月	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
42	Naohiko Imai, Hirofumi Sumi, Yugo Shibagaki	腎臓・高血圧内科	Impact of age on the seasonal prevalence of hypernatremia in the emergency department: a single-center study	International Journal of Emergency Medicine12巻1号 P29 2019年11月	Original Article
43	Imai N, Sumi H, Shibagaki Y	腎臓・高血圧内科	Impact of age on the seasonal prevalence of hypernatremia in the emergency department: a single-center study.	International Journal of Emergency Medicine12巻1号 P29 2019年9月	Original Article
44	Tsutomu Sakurada, Kaori Kohatsu, Shohei Yamada 他	腎臓・高血圧内科	Minilaparotomy for Malfunctioning Peritoneal Dialysis Catheter by Nephrologists: Experiences at Two Centers	Renal Replacement Therapy6巻14号 P1-5 2020年3月(オンライン)	Original Article
45	Tsutomu Sakurada, Atsushi Ueda, Daisuke Komukai 他	腎臓・高血圧内科	Outcomes after peritoneal dialysis catheter placement by laparoscopic surgery versus open surgery: systematic review and meta-analysis	Renal Replacement Therapy5巻37号 P1-13 2019年9月(オンライン)	Original Article
46	Michiho Sodenaga, Shin'ya Tayoshi, Mito Maedomari 他	神経精神科	Dementia and Antisocial Behaviors	Journal of Alzheimer's Disease & Parkinsonism10巻1号 1000484 2020年1月	Original Article
47	Nakahara Kazunari, Morita Ryo, Michikawa Yosuke 他	消化器・肝臓内科	Washing cytology of removed self-expandable metal stent for biliary stricture: A novel cytology technique	Diagnostic cytopathology47巻7号 P743-745 2019年7月	Original Article
48	Morita Nozomi, Okuse Chiaki, Suetani Keigo 他	消化器・肝臓内科	A rare case of Epstein-Barr virus-positive mucocutaneous ulcer that developed into an intestinal obstruction: a case report	BMC Gastroenterology20巻1号 P1-7 2020年1月	Case report
49	Sato Yoshinori, Yasuda Hiroshi, Fukuoka Asako 他	消化器・肝臓内科	Delayed perforation after endoscopic band ligation for colonic diverticular hemorrhage	Clinical Journal of Gastroenterology13巻1号 P6-10 2020年2月	Case report
50	Nakahara Kazunari, Michikawa Yousuke, Morita Ryo 他	消化器・肝臓内科	Endoscopic transpapillary gallbladder stenting using a newly designed plastic stent for acute cholecystitis.	Endoscopy International Open7巻9号 E1105-1114 2019年9月	Original Article
51	Morita Nozomi, Nakahara Kazunari, Morita Ryo 他	消化器・肝臓内科	Efficacy of Combined Thrombomodulin and Antithrombin in Anticoagulant Therapy for Acute Cholangitis-induced Disseminated Intravascular Coagulation	Internal Medicine58巻7号 P907-914 2019年4月	Original Article
52	Ikeda Hiroki, Watanabe Tsunamasa, Atsukawa Masanori 他	消化器・肝臓内科	Evaluation of 8-week glecaprevir/pibrentasvir treatment in direct-acting antiviral-naïve noncirrhotic HCV genotype 1 and 2infected patients in a real-world setting in Japan.	Journal of viral hepatitis26巻11号 P1266-1275 2019年11月	Original Article
53	Kamei Natsuko, Otsubo Takehito, Koizumi Satoshi 他	消化器・一般外科	Prone "computed tomography hernia study" for the diagnosis of inguinal hernia	Surgery Today49巻11号 P936-941 2019年11月	Original Article
54	Katsumata Kenta, Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito 他	消化器・一般外科	A Case of Pancreatic Acinar Cell Carcinoma with Invasion of the Main Pancreatic Duct Treated by Total Pancreatectomy	Journal of St. Marianna University10巻2号 P95-101 2019年12月	Case report
55	Katayama Masafumi, Koizumi Satoshi, Kobayashi Shinjiro 他	消化器・一般外科	Analgesic Safety of Periodic Intravenous Infusion of Acetaminophen After Hepatectomy : A Propensity Score Matching Analysis	Gastroenterology, Hepatology & Digestive Disorders2巻2号 P1-6 2019年12月	Original Article
56	Tsukamoto Yoshitsugu, Enomoto Takeharu, Otsubo Takehito 他	消化器・一般外科	Emergency surgery for a Morgagni hernia causing respiratory failure	International Journal of Case Reports4巻79号 P1-8 2019年10月	Case report
57	Tsukamoto Yoshitsugu, Makizumi Ryouji, Otsubo Takehito 他	消化器・一般外科	CT-Determined Area of the Pelvis Occupied an Upper Rectal Tumor as a Predictor of Surgical Difficulty in Patients Undergoing Laparoscopic Rectal Resection	Journal of St. Marianna University10巻2号 P71-79 2019年12月	Original Article

小計:15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
58	Katsumata kenta, Mikami Shinya, Otsubo Takehito 他	消化器・一般外科	Relation between Decrease in Geniohyoid Muscle Mass and Dysphagia after Surgery for Thoracic Esophageal Cancer	Journal of St. Marianna University10巻2号 P63-70 2019年12月	Original Article
59	KOIZUMI SATOSHI, YAMASHITA SHINGO, MATSUMURA SATOSHI 他	消化器・一般外科	Significance of a preoperative tumor marker gradient for predicting microvascular invasion in cases of hepatocellular carcinoma	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY12巻3号 290-294 2020年3月	Original Article
60	Kawaguchi Takuya, Kawaguchi Kohei, Obayashi Juma 他	小児外科	A new approach using image analysis to assess pulmonary hypoplasia in the fetal lamb diaphragmatic hernia model	Pediatric Surgery International35巻10号 P1131-1136 2019年10月	Original Article
61	Mizuno Masanori, Aso Kenaro, Tsuzuki Yoshimitsu 他	小児科学	A successful treatment of tadalafil in incontinencia pigmenti with pulmonary hypertension.	European Journal of Medical Genetics63巻3号 103764 2020年3月 (オンライン)	Case report
62	Sakurai Kenzo, Nakano Marie, Masumori Chikako 他	小児科	Clinical features of Neonatal Cardiomyopathy	Asploro Journal of Biomedical and Clinical Case Reports.2巻3号 P115-119 2019年11月	Case report
63	Sakurai Kenzo, Mizutani Sho, Hokuto Isamu	小児科	Comparison of ibuprofen and indomethacin for patent ductus arteriosus in preterm infants.	Pediatric Research and child health2巻2号 2019年12月	Original Article
64	Keino Dai, Mori Tetsuya, Morimoto Mizuho 他	小児科	Salvage therapy with azacitidine for pediatric acute myeloid leukemia with t(16:21)(p11;q22)/FUS-ERG and early relapse after allogeneic blood stem cell transplantation: A case report.	Clinical Case Reports7巻11号 P2149-2152 2019年9月	Case report
65	Imaizumi Taichi, Yamamoto-Shimajima Keiko, Yamamoto Toshiyuki	小児科	Advantages of ddPCR in detection of PLP1 duplications	Intractable & Rare Diseases Research8巻3号 P198-202 2019年8月	Original Article
66	Katsuta Tomohiro, Moser A. Charlotte, Offit A. Paul 他	小児科	Japanese physicians' attitudes and intentions regarding human papillomavirus vaccine compared with other adolescent vaccines.	Papillomavirus Research7巻 P193-200 2019年6月	Original Article
67	Suzuki Tomomi, Izumo Masaki, Suzuki Kengo 他	循環器内科	Prognostic value of exercise stress echocardiography in patients with secondary mitral regurgitation: a long-term follow-up study.	Journal of Echocardiography17巻3号 P147-156 2019年9月	Original Article
68	Yoneyama Kihei, Kanaoka Koshiro, Okayama Satoshi 他	循環器内科	Association between the number of board-certified cardiologists and the risk of in-hospital mortality: a nationwide study involving the Japanese registry of all cardiac and vascular diseases	BMJ Open9巻12号 e024657 2019年12月	Original Article
69	Kaiharu Toshiki, Tanabe Yasuhiro, Higuma Takumi 他	循環器内科	First case report of successful PCI with thrombocytopenia treated with partial splenic artery embolization.	Cardiovascular Revascularization Medicine20巻11号 P34-36 2019年11月	Case report
70	Kasagawa Akira, Nakajima Ikutaro, Izumo Masaki 他	循環器内科	Novel device-based algorithm provides optimal hemodynamics during exercise in patients with cardiac Rrsynchronization therapy.	Circulation Journal83巻10号 P2002-2009 2019年10月	Original Article
71	Watanabe Mika, Yoneyama Kihei, Nakai Michikazu 他	循環器内科	Impact of board-certified cardiologist characteristics on risk of in-hospital mortality	Circulation Reports2巻1号 P44-50 2020年1月	Original Article

小計:15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
72	Kaihara Toshiaki, Hoshide Satoshi, Tomitani Naoko 他	循環器内科	Maximum home systolic blood pressure is a marker of carotid atherosclerosis.	Clinical and experimental hypertension41巻8号 P774-778 2019年8月	Original Article
73	Akashi Yoshihiro J	循環器内科	Long-term prognosis in patients with Takotsubo syndrome.	European Journal of Heart Failure21巻6号 P790-791 2019年6月	Review
74	Seido Takae, Jung Ryeol Lee, Nalini Mahajan 他	産婦人科	Fertility preservation for child and adolescent cancer patients in asian countries	Frontiers in Endocrinology10.3389/fendo.2019.00655 2019年10月 (オンライン)	Original Article
75	Hiraku Endo, Naoki Hama, Muhammad Baghdadi 他	産婦人科	Interleukin-34 expression in ovarian cancer: a possible correlation with disease progression	International Immunology32巻3号 P175-186 2020年3月	Original Article
76	Seido Takae, Nao Suzuki	産婦人科	Current state and future possibilities of ovarian tissue transplantation	Reproductive Medicine and Biology18巻3号 P217-224 2019年4月	Review
77	Junichi Hasegawa, Akiko Kurasaki, Toshiyuki Hata 他	産婦人科	Diagnosis of placenta accreta spectrum using ultra-high-frequency probe and Superb Microvascular Imaging	Ultrasound in obstetrics & gynecology : the official journal of the International Society of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology54巻5号 P705-707 2019年11月	Original Article
78	Junichi Hasegawa, Natsumi Furuya, Masatomo Doi 他	産婦人科	Sono-embryological assessments of a true knot that developed into a hypercoiled cord and circumvallate placenta	The journal of maternal-fetal & neonatal medicine : the official journal of the European Association of Perinatal Medicine, the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies, the International Society of Perinatal Obstetricians10.1080/14767058.2019.1704247 2019年12月 (オンライン)	Review
79	Junichi Hasegawa, Tomoaki Ikeda, Satoshi Toyokawa 他	産婦人科	Obstetric factors associated with uterine rupture in mothers who deliver infants with cerebral palsy	The journal of maternal-fetal & neonatal medicine : the official journal of the European Association of Perinatal Medicine, the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies, the International Society of Perinatal Obstetricians10.1080/14767058.2019.1611775 2019年5月 (オンライン)	Original Article
80	Junichi Hasegawa, Akihiko Sekizawa, Tatsuya Arakaki 他	産婦人科	Decline number of uterine fundal pressure maneuver in Japan recent 5 years	The journal of obstetrics and gynaecology research46巻3号 P413-417 2020年3月	Review
81	Oyama Baku, Tsuburai Takahiro, Tsuruoka Hajime 他	呼吸器内科	Complicating effects of obstructive sleep apnea syndrome on the severity of adult asthma.	Journal of Asthma26巻 P1-6 2019年8月	Original Article
82	Marushima Hideki, Kimura Hiroyuki, Miyazawa Tomoyuki 他	呼吸器外科	Survival outcomes of adjuvant chemotherapy with modified weekly nab-paclitaxel and carboplatin for completely resected nonsmall cell lung cancer:FAST-nab.	Anticancer Drugs31巻2号 P177-182 2020年2月	Original Article
83	Yukio Seki, Akiyoshi Kajikawa, Takumi Yamamoto 他	形成外科学	Real-time Indocyanine Green Videolymphography Navigation for Lymphaticovenular Anastomosis	Plast Reconstr Surg Glob Open7巻5号 e2253 2019年5月 (オンライン)	Original Article
84	Tsukahara C, Sase K, Fujita N 他	眼科学	Axonal Protection by Tacrolimus with Inhibition of NFATc1 in TNF-Induced Optic Nerve Degeneration	Neurochemical Research44巻7号 P1726-1735 2019年7月	Original Article
85	Kitaoka Y, Sase K, Tsukahara C 他	眼科	Axonal protection by a small molecule SIRT1 activator, SRT2104, with alteration of autophagy in TNF-induced optic nerve degeneration.	Jpn J Ophthalmol64巻 P298-303 2020年3月	Original Article

小計:13

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
86	Hiroyuki Kunishima, Noriomi Ishibashi, Kaoruko Wada 他	感染症学	The effect of gut microbiota and probiotic organisms on the properties of extended spectrum beta-lactamase producing and carbapenem resistant Enterobacteriaceae including growth, beta-lactamase activity and gene transmissibility	Journal of Infection and Chemotherapy25巻11号 P894-900 2019年11月	Original Article
87	Hiroyuki Kunishima, Emiko Yoshida, Joe Caputo 他	感染症学	Estimating the national cost burden of in-hospital needlestick injuries among healthcare workers in Japan.	PLOS ONE14巻11号 e0224142 2019年11月 (オンライン)	Original Article
88	Iida H, Hanaoka H, Okada Y 他	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	A low perfusion-metabolic mismatch in 99m Tl and 123 I-BMIPP scintigraphy predicts poor prognosis in systemic sclerosis patients with asymptomatic cardiac involvement	International journal of Rheumatic diseases22巻6号 P1008-1015 2019年6月	Original Article
89	Ando Takayasu, Yamasaki Yoshioki, Takakuwa Yukiko 他	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	Concurrent onset of acute lupus myocarditis, pulmonary arterial hypertension and digital gangrene in a lupus patient: a possible role of vasculitis to the rare disorders	Modern rheumatology Case Reports4巻1号 P21-27 2020年1月	Case report
90	Yukiko Takakuwa, Seido Ooka, Yoshioki Yamasaki 他	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	Microscopic polyangiitis associated with progressive colorectal cancer and lung squamous cell carcinoma	Clinical Rheumatology and Related Research 31巻4号 P321-327 2019年12月	Original Article
91	Rie Karasawa, James N. Jarvis	メディカルサポートセンター	Using the Tools of Proteomics to Understand the Pathogenesis of Idiopathic Inflammatory Myopathies	Current Opinion in Rheumatology 31巻6号 P617-622 2019年12月	Review

小計7
合計:91

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	---------------------------	----	---------------	------

(注 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。)

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること。)

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	山本博幸, 渡邊嘉行, 及川律子 他	消化器・肝臓内科	肝胆膵領域のゲノム医療新時代-遺伝子パネルがやってきた!- MSIの分子機構とMSI検査の臨床応用	肝胆膵 79巻6号 P1035-1042 2019年12月	Review
2	田邊淳, 柴垣有吾	腎臓・高血圧内科	みんなが知っておきたい透析診療-透析のキホンと患者の診かた 日常のマネジメント 血圧管理	Medicina 56巻9号 P1397 2019年8月	Review
3	山本雄太郎, 方波見卓行, 五十嵐佳那 他	代謝・内分泌内科	水疱性類天疱瘡に対するジアフェニルスルホン服薬後にHbA1c偽定値を示した1例	糖尿病 62巻7号 406-411 2019年5月	Case report
4	石井聡, 永井義夫, 田中逸	代謝・内分泌内科	2型糖尿病における二重エネルギーX線吸収測定法と生体電気インピーダンス法で測定した体組成の比較	糖尿病 62巻11号 P707-713 2019年11月	Original Article
5	中澤龍斗, 佐々木秀郎, 菊地栄次	腎泌尿器外科	当院における鏡視下小切開拡大前立腺全摘の根治性と出血量の低減に対する取り組み	日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌 11巻 P40-41 2019年12月	Original Article
6	小泉 哲, 大坪 毅人	消化器・一般外科	特集 高齢者の対する消化器外科治療 8. 高齢者肝切除に対する周術期対策	外科 82巻3号 P250-256 2020年3月	Original Article
7	民上 真也, 榎本 武治, 嶋田 仁 他	消化器・一般外科	手術手技 胸部食道癌におけるLinear Staplerを用いた頸部食道胃管吻合法-TRIQ (triple-stapled quadrilateral anastomosis)	手術 74巻3号 P357-361 2020年3月	Original Article
8	大坪 毅人, 山本 雅一	消化器・一般外科	日本肝胆膵外科学会における高難度肝胆膵外科手術の安全確保の取り組み	日本手術医学会誌 41巻1号 P49-55 2020年2月	Original Article
9	小泉 哲, 大坪 毅人, 小林 慎二郎 他	消化器・一般外科	特集: 腹部外傷治療戦略 重症肝外傷手術におけるグリソン一括処理法の有用性	日本腹部救急医学会雑誌 39巻5号 P831-837 2019年7月	Original Article
10	塚本 芳嗣, 根岸 宏行, 大坪 毅人 他	消化器・一般外科	IVRIによる保存的治療のみで救命した急性上腸間膜動脈閉塞症の1例	日本腹部救急医学会雑誌 39巻4号 P715-718 2019年5月	Case report

小計:10
合計:10

(注 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。)

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 1. 目的および適用範囲、2. 定義、3. 倫理審査委員会、3.1. 倫理審査委員会の審査研究、3.2. 倫理審査委員会の構成員、3.3. 倫理審査委員会の成立要件、4. 審査の種類、4.1. 通常審査、4.2. 迅速審査、5. 審査手順、5.1. 審査申請、5.2. 審査準備、5.3. 審査、5.4. 審査結果、5.4.1. 審査結果の種類、5.4.2. 審査結果決議、5.4.3. 審査結果通知、6. 現状報告、7. 研究計画の変更、8. 研究中止または終了、9. 秘密情報、10. 教育・研修、11. 事務担当者の責務、11.1. 事務担当者の業務	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年4回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義や管理委員会の管理基準、審査方法等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

<p>① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況</p>	<p>【コース1～5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース1：年7回 ・コース2：年7回 ・コース3：年7回 ・コース4：年7回 ・コース5：年7回 <p>【コースA～D】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースA：年10回 ・コースB：年10回 ・コースC：年11回 ・コースD：年9回
<p>・研修の主な内容</p> <p>【コース1】</p> <p>・わかりやすい臨床試験の計画と実施、日本における初めての臨床研究（比較試験）、どのような研究が該当するか？、医学研究におけるスキャンダルの歴史、医療倫理の四原則（自律尊重、無危害、善行、正義）の提唱、ヘルシンキ宣言、同意説明文の記載内容（平易な言葉）、「アンケート」についての追記、倫理審査委員会、申請から倫理審査・承認まで、研究者の責務、研究チームを作る、医薬品等の開発の流れと申請・承認・その後の安全管理の流れ、新薬の開発過程、非臨床試験、治験（ヒトに投与開始・第I相～IV相）、PMDA、医薬品開発の臨床試験の実施基準、医師主導型治験</p> <p>【コース2】</p> <p>・臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、どんな臨床研究が素晴らしいか？、研究デザインと根拠の強さ-科学的根拠の質の分類-、研究デザインの分類、臨床試験の王様、エステ通りのケースレポート、エステ通りのケースシリーズ、治療しない人たちはどうなるか？、無作為化コントロール試験・ランダム化比較試験、盲検化（マスク）・二重盲検化とは？、プラセボの必要性、エラーとバイアス、臨床試験事前登録の必要性、科学的理由：「出版バイアスの防止」、バイアスを減らす努力（1）～（3）、臨床試験事前登録の必要性、科学的理由：「出版バイアスの防止」、臨床研究における大切な区別（その1、2）、侵襲、軽微な侵襲、軽微な侵襲の実例1～2、介入研究、同意取得、データの保管、試料・情報の保管方法、既存資料・情報、既存資料・情報の同意の手続き、モニタリング・監査、「適応外使用」などについての考え方、未承認薬などを使う時の現実的問題、未承認薬を使用する場合・適応外使用をする場合、未承認の手技を導入する場合・高難度の手技を導入する場合、個人情報保護法と匿名化について</p> <p>【コース3】</p> <p>・個人情報とプライバシー、用語の解説1、医学研究に大切な用語の説明1、動作も個人識別符号、医学研究に大切な用語の説明1、用語の説明2、「匿名加工情報」書き直し、個人情報の保護に関する法律、「研究」は特別扱いされている！、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、観察研究の典型であるレジストリー研究を考える、頭の中で考えること、介入研究と観察研究の違い、有害事象について、有害事象の定義、有害事象と重篤な有害事象、「重篤な有害事象」の定義、「重篤」は「重症度」と一致しない、有害事象に対する対応、試験開始前までに行う準備、試験薬（治験薬）との因果関係判定基準、試験薬（治験薬）との因果関係、治験依頼者から規制当局への副作用報告期限、まとめ：「有害事象が発生したら・・・」、資料の保管とSDV、SDVの実例（治験の例）、資料保管、臨床研究法施行について【特定臨床研究】、臨床研究法施行に際して重要なこと、Conflict of Interest について、ゲルシンガー事件にみる深刻な利益相反状態、利益相反の開示、COIの報告義務、公益通報、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究（比較試験）</p> <p>【コース4】</p> <p>・生命倫理委員会申請書作成、生命倫理委員会（臨床試験部会、ヒトゲノム・遺伝子解析研究部会）への審査申請について、臨床研究とは、研究デザインの分類、臨床試験(trial)の分類、臨床研究を規制するルール、申請対象者、臨床試験部会等開催日程、申請書類入手の実際の手順、審査申請書、「臨床試験に関する申請手順書」のリンクの下にあるファイル、「各種報告書様式」のリンクの下にあるファイル、研究計画書、患者同意説明文、迅速審査、通常診療によって得られた診療情報を用いる観察研究、報告書作成、その他（お問合わせ先）</p>	

【コース5】

- ・資料「臨床試験登録を教材とした臨床研究学習用プロトコール」に基づき「臨床試験登録WS用フォーム」を使用したワークショップの開催(回答及び解説含む)。

【コースA】

- ・どうして「臨床研究」か?、日本における初めての臨床研究(比較試験)、どのような研究が該当するか?、日常診療と臨床研究の違い、臨床研究で最も大切なことは?、そもそも、臨床研究・臨床試験というものは、必ず「悪」を含むものが臨床試験、臨床試験の損得勘定は、臨床研究に関する規制、医学研究におけるスキャンダルの歴史、医療倫理の四原則の提唱、「医療倫理の4原則」と「ベルモント・レポート」、四原則の意義、ヘルシンキ宣言、同意説明文の記載内容(平易な言葉)、「アンケート」についての追記、倫理審査委員会、申請から倫理審査・承認まで、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、臨床研究における大切な区別(その1、2)、侵襲、軽微な侵襲、軽微な侵襲の実例1~2、介入研究、同意取得、データの保管、試料・情報の保管方法、既存資料・情報、既存資料・情報の同意の手続き、モニタリング・監査、「適応外使用」などについての考え方、未承認薬などを使う時の現実的問題、未承認薬を使用する場合・適応外使用をする場合、未承認の手技・高難度の手技を導入する場合、個人情報保護法と匿名化について、個人情報とプライバシー、用語の解説1、医学研究に大切な用語の説明1、動作も個人識別符号?、医学研究に大切な用語の説明1、「匿名加工情報」、「研究」は特別扱いされている!、用語の説明2、有害事象について(治験の場合を含む)、有害事象の定義、明らかに違う、と感じても、有害事象と重篤な有害事象、「重篤な有害事象」の定義、「重篤」は「重症度」と一致しない、有害事象に対する対応、試験開始前までに行う準備、試験薬(治験薬)との因果関係判定基準、試験薬(治験薬)との因果関係、治験依頼者から規制当局への副作用報告期限、まとめ:「有害事象が発生したら・・・」、資料の保管とSDV、SDVの実際(治験の例)、資料保管、臨床研究法施行について【特定臨床研究】、「特定臨床研究」の範囲について、重篤な疾病等の報告の義務付け、臨床研究法施行に際して重要なこと、法律に基づく資金提供の公表範囲、Conflict of Interest について、ゲルシンガー事件にみる深刻な利益相反状態、利益相反の開示、COIの報告義務、公益通報、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究(比較試験)

【コースB】

- ・どうして「臨床研究」か?、日本における初めての臨床研究(比較試験)、日常診療と臨床研究の違い、臨床研究で最も大切なことは?、そもそも、臨床研究・臨床試験というものは、必ず「悪」を含むものが臨床試験、臨床試験の損得勘定は、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、実際に臨床研究計画を立てよう、プロトコール(計画書)作ることの意味、臨床研究の種類、どんな臨床研究が素晴らしいか?、-研究デザインと根拠の強さ -科学的根拠の質の分類- -研究デザインの分類-、臨床試験の王様、エステ通いのケースレポート、エステ通いのケースシリーズ、治療しない人たちはどうなるか?、無作為化コントロール試験・ランダム化比較試験、盲検化(マスク)・二重盲検化とは?、プラセボの必要性、エラーとバイアス、バイアスを減らす努力(1)~(3)、臨床試験事前登録の必要性、科学的理由:「出版バイアスの防止」、観察研究の典型であるレジストリー研究を考える、頭の中で考えること、介入研究と観察研究の違い、具体的なお話、1.目的がよくわからない、2.目的が2つ(以上)、研究計画はなるべく単純に!、3.比較試験の基準が不明確、4.サンプルサイズが適切でない、探索型研究を上手に利用する、研究デザインの分類、観察研究のコツ、前向き観察研究の利点とコツ、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究(比較試験)

【コースC】

- ・臨床研究と言ってもいろいろあって…用語だけでも混同しやすく…、研究デザインの分類、臨床試験(trial)の分類、臨床研究等の分類の整理、つまり…臨床研究の手続きにおいては…、[申請書類入手の実際の手順]、患者同意説明文(各自で作成)、迅速審査(書面審査)、通常診療よって得られた診療情報を用いる観察研究、他の研究機関への既存試料・情報の提供に関する届出書、有害事象報告で頻発する失敗、とにかく、申請関連の作業の時に、その他(お問合せ先)

【コースD】

- ・資料「臨床試験登録を教材とした臨床研究学習用プロトコール」に基づき「臨床試験登録WS用フォーム」を使用したワークショップの開催(回答及び解説含む)。

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本学には、後期研修プログラムとして「任期付助教」と「大学院」の2つのコースが設けられている。

「任期付助教」は、3～5年間で専門分野の研修を行うが、特に内科学9分野・外科学5分野については、細分化された研修に入る前の前半2～3年間で各分野をラウンドする内容となっており、広汎な疾患を経験した後で各専門領域の研修を行うことができる。

任期付助教終了後は専門医の申請が可能であり、またこの期間は本学の規定により研究歴として加算されるため、学位申請も可能となっている。

一方、「大学院」は指導教授の指導のもと4年間学術研究を行い、その研究成果を取りまとめ提出、学内の最終審査に合格すれば博士(医学)の学位が取得できる。

なお、大学院学生の身分を有しつつ「診療助手」として病棟・外来の診療業務につくことが出来る制度があり、大半の大学院学生は研究に専念する期間以外にも自分の目指す臨床分野の後期研修を行っており、このコースでは、学位取得と同時に専門医の取得も可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	256人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松田 隆秀	内科	部長	40年	
峯下 昌道	呼吸器内科	部長	34年	
明石 嘉浩	循環器内科	部長	24年	
伊東 文生	消化器・肝臓内科	部長	37年	
柴垣 有吾	腎臓内科	部長	27年	
曾根 正勝	代謝・内分泌内科	部長	24年	
山野 嘉久	脳神経内科	部長	27年	
新井 文子	血液内科	部長	32年	
川畑 仁人	リウマチ科	部長	28年	
砂川 優	腫瘍内科	部長	17年	
古茶 大樹	神経精神科	医長	30年	
清水 直樹	小児科	部長	30年	
大坪 毅人	消化器外科	部長	34年	
宮入 剛	心臓血管外科	部長	37年	
佐治 久	呼吸器外科	部長	25年	
古田 繁行	小児外科	部長	24年	
津川 浩一郎	乳腺・内分泌外科	部長	33年	
田中 雄一朗	脳神経外科	部長	37年	
仁木 久照	整形外科	部長	29年	
梶川 明義	形成外科	部長	36年	
門野 岳史	皮膚科	部長	28年	
菊地 栄次	泌尿器科	部長	26年	
鈴木 直	産婦人科	部長	29年	
高木 均	眼科	部長	33年	

肥塚 泉	耳鼻咽喉科	部 長	39年	
三村 秀文	放射線科	部 長	33年	
井上 莊一郎	麻酔科	部 長	27年	
小池 淳樹	病理診断科	部 長	29年	
藤谷 茂樹	救急科	部 長	30年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数 該当無し・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 大坪 毅人	
管理担当者氏名	事務部長 根津 保廣	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	事務部管理課
		各科診療日誌	事務部管理課
		処方せん	薬剤部、IT戦略推進室、診療記録管理室
		手術記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		看護記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		検査所見記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		エックス線写真	IT戦略推進室、診療記録管理室
		紹介状	IT戦略推進室、診療記録管理室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事部人事課
		高度の医療の提供の実績	事務部管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部管理課
		高度の医療の研修の実績	事務部管理課
		閲覧実績	事務部管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務部管理課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	クリニカルエンジニア部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	クリニカルエンジニア部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	クリニカルエンジニア部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	クリニカルエンジニア部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療記録管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	事務部管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	人事部人事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室 薬剤部 クリニカルエンジニアニ部
		管理者が有する権限に関する状況	総務部総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法務・監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	(1) 診療記録管理室長 門野岳史	
閲覧担当者氏名	(1) 診療記録管理課長 諸戸真由美	
閲覧の求めに応じる場所	(1) 診療記録管理室	
閲覧の手続の概要		
(1) 診療記録関係は、診療記録管理室 診療記録の閲覧は「大学病院における診療記録に関する運用管理規程」に基づき行っている。 診療記録の開示は「大学附属病院における診療情報に関する開示規程」に基づき行っている。 「診療記録等開示申請書」による申請時に請求者確認を身分証等で行い、主治医、診療部長、 病院長等に許可申請を行い、決裁後に提供を行っている。		
(2) (1) 以外は、事務部管理課		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 基本的考え方。 2. 用語の定義。 3. 委員会、体制。 4. 職員研修。 5. 報告制度。 6. インシデント・アクシデント・合併症の診療記録記載。 7. 重大事故等発生時の対応。 8. 医療事故調査支援センターへの報告。 9. 患者からの相談への対応。 10. 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報提供。 11. マニュアルの整備。 12. 指針の改訂。 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 開催状況：年 12回 ・ 活動の主な内容： 1. 医療安全管理に係る基本方針、管理体制に関すること。 2. 医療安全対策、推進、教育に係る立案とその実施。 3. 院内死亡事例の検討。 4. アクシデント、合併症事例の検討。 5. 安全管理にかかわる職員への周知、研修に関すること。 6. 安全管理のため立案された改善策の実施状況の調査、見直しに関すること。 7. 医療安全に係る各部門、各委員会からの報告事項の検討と承認。 8. 病院長からの諮問事項に関すること。 9. その他、医療安全の推進に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 28回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： 1. 第1回 医療安全職員研修会「ノンテクニカルスキル」 2. 第2回 医療安全職員研修会「医療安全の日 シンポジウム」 3. KYT研修会基礎編（全7回） 4. KYT研修会実践編 5. 新入職者オリエンテーション医療安全研修 6. 研修医オリエンテーション医療安全研修 7. 新規採用者・復職者・異動者研修 8. 新セーフティマネージャー対象研修 9. 新人看護師研修 10. 看護部経年別（2年目・3年目・4年目・5年目）研修（全8回） 11. 研修医医療安全講習会（全5回） 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	

1. 事例の収集は医療安全レポート報告システムを活用し、収集している。
 - 1) 2019年度 年間報告件数：8,543件
インシデント：8,228件、アクシデント：79件、合併症：162件
その他：74件
 - 2) 手術部バリエーション報告件数：274件
 - 3) 必要時、疑義照会やバリエーション、関連部署へレポート入力依頼をしている。
2. 事例の分析は、報告事例検討委員会を開催し、アクシデント3b以上、合併症、必要時インシデント事例等を検討している。M&Mカンファレンス、事例検討会開催は、必要時に依頼医療安全管理室スタッフも検討会には参加している。
 - 1) 報告事例検討委員会
・開催日時：毎週月曜日 9時～10時30分
・参加者：医療安全管理責任者、医療安全管理室長、医療安全管理者（医師・薬剤師・看護師）、患者相談窓口看護師・事務、兼務者（医師2名・診療記録管理室事務）
 - 2) 報告事例検討委員会審議結果を医療安全統括会議で報告・審議し、決定結果をセーフティマネジメント委員会で報告している。
3. 必要時、当該科を含め多職種参加のワーキンググループを立ち上げ、再発防止策を検討している。その結果は医療安全統括会議、セーフティマネジメント委員会等で周知している。

<2019年度の活動実績>

- 1) 転倒・転落防止：医療安全マニュアル、転倒・転落要因チェックリストの改訂。
- 2) アレルギー入力：薬剤アレルギー情報入力者を決定し、入力・確認方法を周知。
- 3) 静脈穿刺：神経麻痺防止策を検討し、マニュアル改訂。
- 4) 潜在性結核：現状、問題点、再発防止策について検討中。
- 5) 神経分野誤接続防止コネクタ：ISO基準導入前。
- 6) 小児プロポフォル対応：説明・同意書の改訂。
- 7) 気管カニューレ迷入対応：迷入防止策の検討、マニュアル作成。
- 8) 外来経口抗がん剤服用患者 把握のためのワーキンググループ：問題点、再発防止策について検討。評価：実施後のアンケート調査実施。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第4版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は次の通りである。1. 基本理念、2. 感染管理に係る組織、委員会、3. 職員研修、教育の実施、4. 感染対策マニュアルの整備、5. 医療関連感染サーベイランスの実施、6. 適正抗菌薬療法の推進、7. 職業感染防止、8. 院内感染発生時の対応、9. 患者への情報提供と説明、10. 指針の改訂（最終改訂 2017年7月18日） 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容：毎月感染委員会が開催されている。委員長は感染制御部部長で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査部、薬剤部、病理診断科、事務（施設、人事など）の職員で構成されている。議題の主な内容は次の通りである。1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関する事、2. 院内感染・アウトブレイクの発生の要因及び対応に関する事、3. 滅菌及び消毒に関する事、4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関する事、5. 原因微生物別感染防止対策に関する事、6. 用途別、菌種別消毒薬に関する事、7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関する事、8. 感染症報告書に関する事、9. 労働災害上の感染措置及び取扱いに関する事、10. 院内感染防止のための検査に関する事、11. 環境微生物検査に関する事、12. 感染性廃棄物の適正処理に関する事、13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関する事、14. 病院長からの諮問事項に関する事、15. その他、感染防止に関する事。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 19回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の内容（すべて）：全職員対象の研修会を年3種類開催している。それ以外に、新入職員に対する講習、看護師を対象にした講習、院内清掃業者等を対象にした講習などを合計すると年間19回程度の講習会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価 感染防止の推進に関する事項 ※2019年度研修会（全職員対象）内容：「順天堂医院における感染制御に関する取り組み」（第1回感染対策研修会）、「救命救急医療の地球規模感染症対策における役割」（第2回感染対策研修会）、「クロストリディオイデス・ディフィシル感染症」（第3回感染対策研修会） 【対象者別で行った講演会】「院内感染防止対策について」、「標準予防策の技術について」、「SSI学習会」、「手指衛生と個人防護具について」等 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 病院における発生状況の報告等の整備（有・無） <ol style="list-style-type: none"> 「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している。 毎月部署毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している。 抗菌薬使用状況を集計して報告している。 サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している。 その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 抗MRSA薬・カルバペネム薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認） 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う。 ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知 「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況		有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況		年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>令和元年度 医薬品安全使用のための研修会実績 薬剤部</p>		
研修日	研修内容	参加者
5月14日	別館5階新人オリエンテーション	薬剤師2名 看護師9名
5月20日	精神疾患に用いられる薬剤についての基礎知識	薬剤師1名 看護師2名
5月24日	腎病棟新人看護師 勉強会	薬剤師1名 看護師8名
6月3日	別7南病棟勉強会 ステロイド	薬剤師1名 看護師9名
5月15日、 6月22日	新人看護師技術研修（安全な与薬、薬剤師の立場から）	看護師5名 薬剤師136名
7月3日	医療安全における医薬品取り扱いの注意点	医師443名 薬剤師71名 看護師829名
7月30日	7西病棟 麻薬講習会	薬剤師1名 看護師11名
11月21日	8西 癌性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬	薬剤師1名 看護師6名
12月5日 12月13日	5南病棟 新人看護師勉強会	薬剤師1名 看護師4名
3月17日～	未承認新規医薬品・医療機器等評価部門について	医師373名 薬剤師59名 看護師794名（9/9現在）
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況		
<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修 医薬品安全管理に関する定期巡回を年3回実施 その回ごとに重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する 手順書に基づく業務の実施状況の確認</p>		
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</p>		

- 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：
2%セフトジジム点眼液 細菌性眼内炎
 - その他の改善のための方策の主な内容：
薬剤部内に医薬品情報室を設置し、PMDA、DSU、海外文献、学会誌、DRUGDEX、大学図書館、製薬会社より最新情報を入手し、DIニュース、院内メール、病棟担当薬剤師等により情報提供を行っている。緊急安全性情報等の特に重大な情報に関しては、閲覧リストを提出することで周知の確認を実施している。また院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知している。
-IT戦略推進室又は薬剤部部門システムより必要に応じ、使用量、使用患者、処方医師、使用診療科等のデータを抽出し把握している。
- 2019年度
- 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に基づいた副作用報告の報告書を電子カルテより入力可能とした。医薬品医療機器総合機構へ報告は、従来通り薬剤部から行う。
 - 3文字検索によるエクセグラン錠、エクセラゼ配合錠の誤処方予防のため、エクセグラン錠処方時に抗てんかん薬であることを知らせるポップアップを設定
 - 3文字検索によるドプラム注射液、トブラシン注の誤処方予防のため、半濁点を識別可能にシステム改修を行った。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 60 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 特定8機種の内院内にある7機種2回/年行っている。 全職員を対象とした医療機器の安全使用に関する研修1回/年 新人研修医に対する研修1回/年 新人看護師に対する研修1回/年 救命センターにローテーションできた医師に基本的な機器の操作の研修 病棟で使用している機器の取り扱い研修 等 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 基本的には電気的安全性試験、動作試験は全ての機器で行う。 輸液ポンプやシリンジポンプなど薬液の注入や血液ポンプなどは精度試験を行う。 生体情報モニタなど信号の表示などを行う機器はシュミレータを使用し表示値の読み取りを行う。 透析装置や人工呼吸器などメーカー指定の講習会に出席し定期的な部品交換を行う。 画像関連や大型の装置はメーカーの保守契約を結んで日程を調整している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の機種を可能な限り絞り込む。 PMDAに登録し回収情報や医療安全情報を調べ必要に応じ全職員にメールしている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (<input checked="" type="checkbox"/>医師・<input checked="" type="checkbox"/>歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ・ 別紙 (医療安全管理に関する体制) 									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (13名) ・無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> ① 医薬品の安全使用のための業務手順書を年1回改訂 ② 教職員に対する医薬品の安全使用のための研修を年2回実施、及び他職員による研修会を記録管理 ③ 医薬品の業務手順書に基づく定期巡回を年3回実施 ④ 医薬品の安全確保を目的とした改善のため、前述した様な対策。システム改修等を立案・実施 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ①未承認等の医薬品の使用状況を部門会議部で検討・報告し、薬事委員会で報告する。 ・ 担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無) ・ 担当者の所属・職種： <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(所属：薬剤部 ， 職種 係委員)</td> <td style="width: 50%;">(所属： ， 職種)</td> </tr> <tr> <td>(所属：薬剤部 ， 職種 係委員)</td> <td>(所属： ， 職種)</td> </tr> <tr> <td>(所属： ， 職種)</td> <td>(所属： ， 職種)</td> </tr> <tr> <td>(所属： ， 職種)</td> <td>(所属： ， 職種)</td> </tr> </table> 		(所属：薬剤部 ， 職種 係委員)	(所属： ， 職種)	(所属：薬剤部 ， 職種 係委員)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)
(所属：薬剤部 ， 職種 係委員)	(所属： ， 職種)								
(所属：薬剤部 ， 職種 係委員)	(所属： ， 職種)								
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)								
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 									

: 遵守状況の確認

①インフォームドコンセントに用いる説明・同意文書に関する確認

診療記録管理委員会の下部組織である説明・同意検討部会で、説明・同意文書の書式を一括管理している。新規作成文書については、説明・同意検討部会の審査で承認を得たものを使用可としている。院内共通書式でない既存の文書については、書式の統一化に努めている。

②インフォームドコンセントに関する記載内容等の確認

医療安全管理室の報告事例検討委員会等で、患者に実施された医療行為について、事前に適切な説明を行っているか、当該患者の同意を得られているかを確認している。また、診療記録管理委員会では、診療記録・電子カルテへの記載内容の点検に関する協議を行い、下部組織である診療記録評価部会で、記載内容の監査を実施している。

: 指導の内容

①電子カルテに説明内容や同意取得についての記載が不十分である場合は、医療安全管理室から記載者に記載内容について指導を行っている。

②監査実施後は、記載内容の評価結果を取りまとめ、診療記録管理委員会や管理運営会議等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている。

③電子カルテ上で、患者ごとのインフォームドコンセントに関する記事を一括表示出来るよう「インフォームドコンセント」のタイトル入力と、記入漏れをなくするためのテンプレート使用を指導している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

: 記載内容の確認

①診療記録等の作成状況を日々確認し、記載不備に関しては、その都度、記載医師や看護師等に記載完了または追記を促す。

②退院時要約は、担当医が作成し、主治医が確認、診療部長が承認する。診療録の管理者は病院全体の作成状況を把握し改善に努めている。未作成の場合は督促を行う。

③「診療記録監査実施要綱」に基づき、診療記録監査を適宜実施し記載内容の確認を行っている。

: 指導の内容

記載内容の評価結果を取りまとめ、診療記録管理委員会や管理運営会議等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（18）名、専任（ ）名、兼任（ 8）名</p> <p>うち医師：専従（ 1）名、専任（ ）名、兼任（ 5）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ 1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（ 3）名、専任（ ）名、兼任（ 1）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全死亡事例の検証。 2. インシデント、アクシデント、合併症、手術室バリエーションの収集分析。 3. 重大事故発生時の対応。 4. 医療事故調査制度への報告。 5. 安全な医療の実施状況確認のための院内ラウンド及び教育指導。 6. 医療安全に係る職員研修の企画、実施。 7. 診療内容のモニタリング。 8. その他医療安全の推進に関すること。 9. 高難度新規医療技術に関すること。 10. 未承認新規医薬品・医療機器等に関すること。 11. 必要時、患者相談窓口スタッフと連携し、事案の対応。 12. 災害に関すること。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 9件）、及び許可件数（ 9件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療技術の提供に関する倫理的・科学的妥当性に関すること ・医療技術を提供することの適切性及び適切な提供方法に関すること ・科学的根拠が確立していない医療技術については、有効性及び安全性の検証の必要性、臨床研 	

究として実施する等、科学的根拠の構築に資する実施方法に関すること

- ・医療技術の提供の適否及び提供後に報告する症例等に関すること

等の確認。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）

- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）

- ・活動の主な内容：

(1) 未承認新規医薬品・医療機器の使用条件を定め、使用の適否を決定する。

(2) 診療科の長から、未承認新規医薬品・医療機器使用申請を受ける。

(3) 未承認新規医薬品・医療機器等評価担当部門（以下「担当部門」という）を設置し意見を求める。

(4) 次条に規定する「未承認新規医薬品・医療機器等評価担当部門規程」に基づき、未承認新規医薬品・医療機器等使用患者の診療録等の記載内容を定期的に確認し、適正な手続きに基づく使用であるか否かを確認する。また、使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合にも同様に確認する。

(5) 担当部門の決定事項及び4項の内容について病院長に報告する。

(6) 担当部門の決定事項を診療科の長に通知する。

(7) その他未承認新規医薬品・医療機器に関すること。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 1,229 件

- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 0 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 院内死亡事例の検討。
2. アクシデント、インシデント、合併症事例の検討。
3. 検討会やM&Mカンファレンスで立案された改善策の実施状況の調査、見直しに関すること。
4. 医療安全マニュアル作成、改訂時の承認。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：獨協医科大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：獨協医科大学病院）・無）

・技術的助言の実施状況

1. M&Mカンファレンスは病院全体で一つの事案を検討する事が原則と考えられますので、他職種の病院関係者による検討会の開催のご検討をお願いいたします。
→病院全体で共有すべきと考えられる事例に関して、セーフティマネジメント委員会で報告・審議する方針としております。令和2年1月に開催したセーフティマネジメント委員会では、多職種の病院関係者による検討を行いました。
2. 鎮静のガイドラインについて数行のガイドラインはあったと思いますが、院内で話し合い鎮静ガイドラインの策定をなさることのご検討をお願いいたします。
→ワーキンググループを立ち上げ、侵襲的な検査等における鎮静ガイドラインを策定中。
3. 院内ラウンドで気づいた点については、もう一度年内にラウンドし改善されているかチェックするようお願いいたします。
→医療安全管理室ラウンドのスケジュールに組み入れ実施しています。
4. 死亡事例については症例をためずに、毎日報告するようにご検討をお願いいたします。
→死亡患者一覧表が診療記録管理室より毎日提出されておりますので、医療安全管理者が確認する方針としております。
5. IC説明の院内統一文書がまだ不完全であり、今後統一できるようご検討をお願いいたします。
→現在ICにおける文書の統一に向けて、鋭意作業を行っております。
6. ETCO₂については過鎮静・食道挿管等のトラブルがありますので、管理についてはME主体となり整備していただける環境のご検討についてお願い致します。
→内視鏡や血管造影等において鎮静する場合は機械を使用し、挿管する場合はペディキャップを導

入する方針としております。

7. 侵襲的検査については院内で話し合いリストアップし抜けの無いようご検討をお願いいたします。

→侵襲的検査について、診療記録管理室と医療安全管理室で把握し、リストアップする方針としております。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
- ・別紙（医療安全管理に係る体制）

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- ・未実施

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

管理者：2019年10月11日 令和元年度特定機能病院管理者研修

医療安全管理責任者：2019年10月11日 令和元年度特定機能病院管理者研修

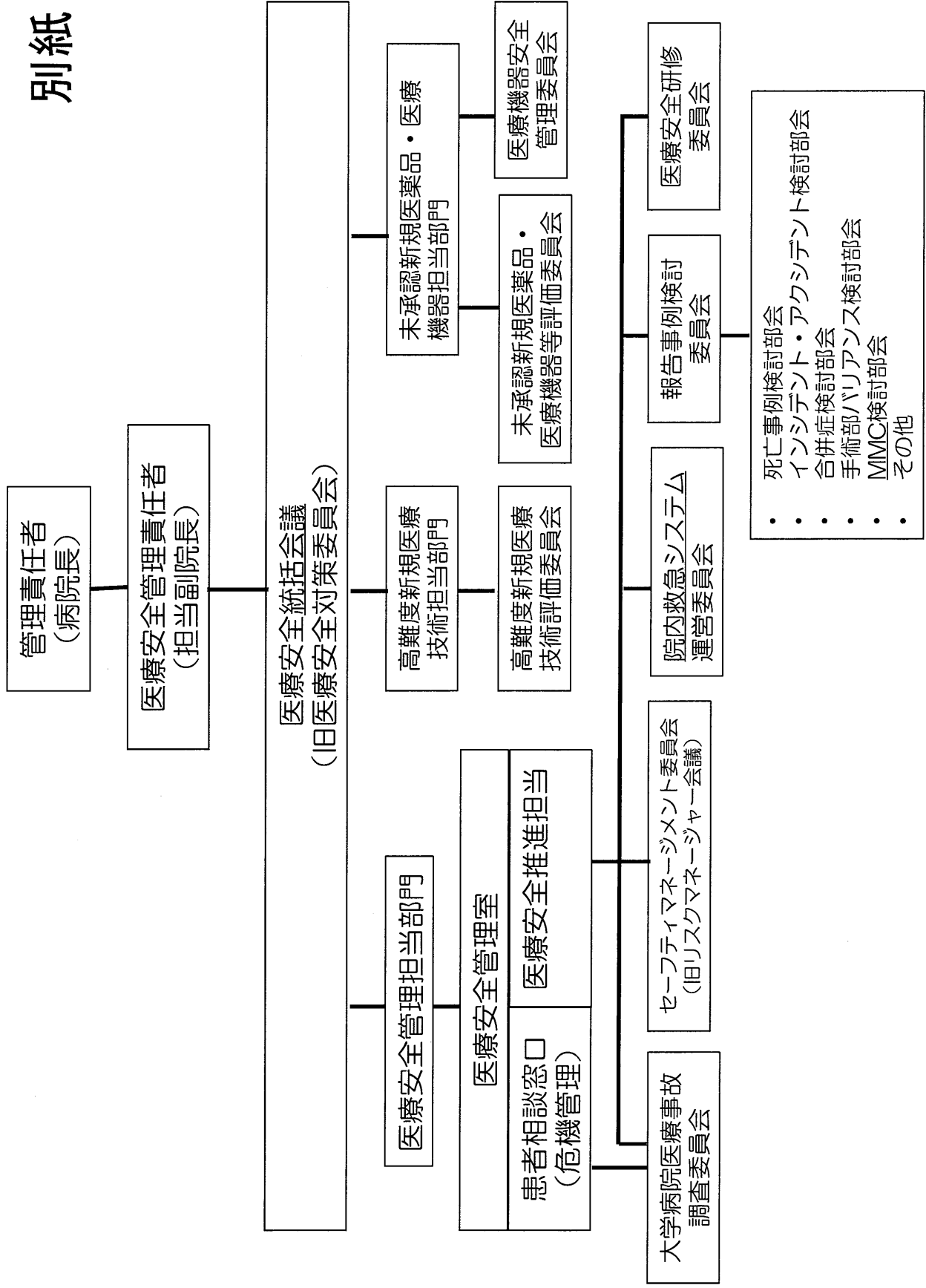
医薬品安全管理責任者：2019年10月11日 令和元年度特定機能病院管理者研修

医療機器安全管理責任者：2020年1月17日 2019年度特定機能病院管理者研修

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

医療安全管理に係る体制

別紙



規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> ① 医師免許を有している者（初期臨床研修修了者） ② 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者 ③ 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 大学病院ホームページにて公表。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由、管理者の選考結果、選考過程について大学病院ホームページにて一般公開。 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
三宅 良彦	聖マリアンナ医科大学	○	副理事長	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
久保田 恭司	聖マリアンナ医科大学		理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
加藤 智啓	聖マリアンナ医科大学		医学部長	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
伊東 文生	聖マリアンナ医科大学		研究科長	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
平 泰彦	聖マリアンナ医科大学		大学病院顧問	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
本館 教子	聖マリアンナ医科大学		大学病院看護部長	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
二川 一男	外部組織		外部有識者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
益子 まり	外部組織		外部有識者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算等を審議。 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 各部署の所属長より審議内容について、周知徹底を行っている。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・無 ） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙 管理運営会議名簿参照			

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
管理者が、病院の管理・運営に必要な指導力を発揮できる内容。具体的には、病院業務の総括者として、病院の管理運営に必要な人事及び予算の執行権限を有する旨を明記している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長（5名）がそれぞれの役割を担い、病院長を補佐し、病院長に事故あるときは予め指名された副院長がその職務を代理し、病院長が欠けたときはその職務を行う。
病院顧問は、本院の業務遂行に関し、管理者に助言することができる。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
「中堅事務職員研修会」、「管理者対象医療安全研修」、「評価者研修会」

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容：医療安全管理業務の執行状況に関する監査 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 公表の方法：聖マリアンナ医科大学病院ホームページにて公表。 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
別紙	監査委員会名簿参照				

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
監査実施計画に基づき定期的に業務監査及び財務会計監査を実施している。監査の結果、改善すべき事項があると判断した場合、文書にて対象部署の所属長に通知し、改善措置について回答を得ている。
- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

<p>開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 常勤理事及び監事により構成される「常任役員会」を毎月1回（8月は休会）開催し、病院長より報告される経営管理状況を基に、経営向上に向けた検討を行っている。また、合わせて、質の高い医療の確保や効率的な管理運営が実現されるよう、組織管理体制の拡充についても随時議論している。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 公表の方法 学内報及び学内イントラネットへの掲載
--

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：常任役員会

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
明石勝也	聖マリアンナ医科大学	○	有
北川博昭	〃		有
三宅良彦	〃		有
大坪毅人	〃		有
加藤智啓	〃		有
鈴木宣男	〃		有
近藤浩志	〃		有
小宮 清	〃		有
山本真士	〃		有
福島弘榮	外部機関		無
清水 至	〃		無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">・ 個人が特定されないよう無記名、鍵付きポストへの提出。・ 職員ハンドブック (携帯版医療安全マニュアル・第14版)に記載し、医療安全研修や医療安全管理室ラウンドで周知している。

聖マリアンナ医科大学病院 監査委員会名簿

医療安全管理業務の執行状況を監査するために、委員長及び委員の過半数が当院と利害関係のない監査委員会を設置いたしました。
(医療法施行規則第15条の4第1項第2号に基づく委員会) (平成31年4月1日)

開設者(理事長) 明石 勝也

氏名	所属・役職	委員	選定理由	利害関係	委員の要件
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、 明治大学法科大学院教授、 山本柴崎法律事務所 弁護士	委員長 (外部委員) 再任	一橋大学教授、九州大学・北海道大学等多数の大学の講師及び 司法研究所講師等の教職、日本民事訴訟法学会、日本私法学会 及び仲裁ADR学会等の理事、法制審議会幹事・臨時委員、下級 裁判所裁判官指名諮問委員会委員、最高裁判所民事規則諮問委 員会委員及び司法試験考査委員等の法律立案・法曹養成等の公 職、学校法人藤村学園副理事長を歴任し、さらに長年にわたってカ ンボディア王国及び中華人民共和国の法整備の支援に尽力され、 日本を代表する民事訴訟法学者である。 また、平成21年には本院の医療事故調査委員会外部委員を務め たほか、医療事故を代表する判例の解説(「ルンバール事件」)民事 訴訟法判例百選第4版)を著すなど、医療関係の法務についても深 い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られてい るところであり、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理 又は法律に関する識 見を有する者その他 の学識経験を有する者
小林 信秋	認定NPO法人 難病のこども支援 全国ネットワーク会 顧問	委員 (外部委員) 再任	文部科学省や厚生労働省の協力委員や検討委員などを歴任さ れ、様々な立場での見識を有し、長年にわたり患者の立場に立った 活動を行っている。 また、一般の立場を代表する者として、他医療機関の倫理委員や 本学の生命倫理委員会特定認定再生医療部会委員を務め、人 格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療を受ける者その他 の医療従事者以外の 者
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授	委員 (外部委員) 新任	心臓外科医の指導医として活躍、国立保健医療科学院政策科学部 安全科学室長を務め、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全 管理部准教授、東京医科大学医療安全管理学講座主任教授を経 て現職。 インфекションコントロールドクター(ICD)、日本医療の質・安全学 会理事、日本医療・病院管理学会評議員、日本呼吸器外科学会評 議員、横浜市立大学病院外部評価委員会委員長を務める。 感染制御および医療安全管理業務の経験を有する委員として見識 を有している。人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理 又は法律に関する識 見を有する者その他 の学識経験を有する者
益子 まり	川崎市非常勤嘱託産業員	委員 (外部委員) 新任	小児科医として実務経験後、地域の医療行政を推進、川崎市保健 所長を務める。医療現場で医療安全に関する法律が適切に実施さ れているのを監督する立場にあり見識を有する。川崎市内の特定 機能病院である当院の医療安全の実施に指導的役割を担ってこら れた経験があり、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理 又は法律に関する識 見を有する者その他 の学識経験を有する者
中尾 智彦	法務・監査室 室長	委員 (内部委員) 再任	法人の法務・監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平 な立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	有	その他

2020年度 管理運営会議 出席者

組織図上の役職等		氏名	
病院長・副院長	病院長	オオツボ 大坪	タケヒト 毅人
	副院長 呼吸器内科部長 【医療安全、感染対策、機能評価、新病院建設】 呼吸器病センター長、夜間救急センター副センター長	ミネシタ 峯下	マサミチ 昌道
	副院長 整形外科部長 【病床管理、診療報酬、医療器材・薬事、臨床倫理】 リウマチ・膠原病生涯治療センター副センター長	ニキ 仁木	ヒサテル 久照
	副院長 救急科部長 【労働安全衛生、選定療養、附属病院間連携、保育園】 救命救急センター長、看護師特定行為研修センター長	フジタニ 藤谷	シゲキ 茂樹
	副院長 循環器内科部長 【IT化推進、診療情報、地域連携、教育・研修】 救命救急センター副センター長、メディカルサポートセンター長	アカシ 明石	ヨシヒロ 嘉浩
	副院長 看護部長 【看護・病床管理担当】	モトダテ 本館	ハリコ 教子
顧問院	病院顧問 横浜市西部病院筆頭副院長	タイラ 平	ヤスヒコ 泰彦
診療部門	総合診療内科部長 内科総合診療部長	マツダ 松田	タカヒデ 隆秀
	消化器・肝臓内科部長	イトウ 伊東	フミオ 文生
	腎臓・高血圧内科部長 腎臓病センター長、クリニカルエンジニア部副部長	シバガキ 柴垣	ユウゴ 有吾
	代謝・内分泌内科部長 糖尿病センター長	ソネ 曾根	マサカツ 正勝
	脳神経内科部長 脳卒中センター長、ゲノム医療推進センター長	ヤマノ 山野	ヨシヒサ 嘉久
	血液内科部長 輸血部長	アライ 新井	アヤコ 文子
	リウマチ・膠原病・アレルギー内科部長 リウマチ・膠原病生涯治療センター長	カワハタ 川畑	キミト 仁人
	腫瘍内科副部長 腫瘍センター長	スナカワ 砂川	ユウ 優
	神経精神科部長 精神療法・ストレスケアセンター長、緩和ケアセンター長	コチャ 古茶	ヒロキ 大樹
	小児科部長 こどもセンター長、てんかんセンター長、 リウマチ・膠原病生涯治療副センター長、救命救急副センター 看護師特定行為研修センター副センター長	シミズ 清水	ナオキ 直樹
	新生児科部長 総合周産期母子医療センター長	ホクウ 北東	イサム 功
	消化器・一般外科 中央手術部副部長	ミカミ 民上	シンヤ 真也
	心臓血管外科部長 ハイブリッド心臓大動脈治療センター長、ハートセンター副センター	ミヤイリ 宮入	タケシ 剛
	呼吸器外科部長 呼吸器病センター副センター長	サジ 佐治	ヒサシ 久

2020年度 管理運営会議 出席者

組織図上の役職等		氏名	
診療部門	小児外科部長 臨床研修センター長、総合周産期母子医療センター副センター長、こどもセンター副センター長	フルタ 古田	シグユキ 繁行
	乳腺・内分泌外科部長 遺伝診療部長、腫瘍センター副センター長	ツ ガワ 津川	コウイチロウ 浩一郎
	脳神経外科部長 脳卒中センター副センター長	タナカ 田中	ユウイチロウ 雄一郎
	形成外科部長	カジカワ 梶川	アキヨシ 明義
	皮膚科部長 診療記録管理室長	カドノ 門野	タカフミ 岳史
	腎泌尿器外科部長	キクチ 菊地	エイジ 栄次
	産科・婦人科部長 腫瘍センター副センター長、生殖医療センター長	スズキ 鈴木	ナオ 直
	眼科部長	タカギ 高木	ヒトシ 均
	耳鼻咽喉科部長	コイツカ 肥塚	イズミ 泉
	放射線科部長 画像センター長	ミムラ 三村	ヒデフミ 秀文
	麻酔科部長 クリニカルエンジニア部長	イノウエ 井上	ソウイチロウ 荘一郎
	病理診断科部長	コイケ 小池	ジュンキ 淳樹
	リハビリテーション科 リハビリテーションセンター長	ササキ 佐々木	ノブユキ 信幸
病理診断科主幹	アベ 阿部	カヨコ 佳代子	
病院長直轄	医療安全管理室長 消化器・肝臓内科副部長、内視鏡センター長	ヤスダ 安田	ヒロシ 宏
	医療安全管理室主幹	ウチカワ 内川	タカコ 隆子
	医療安全管理室課長	キタハラ 北原	ケイコ 圭子
診療施設部門	感染制御部長 感染症センター副センター長	タケムラ 竹村	ヒロム 弘
	ハートセンター長 循環器内科副部長、クリニカルエンジニア部副部長	ハラダ 原田	トモオ 智雄
	肝疾患医療センター長 消化器・一般外科副部長	コイズミ 小泉	サトシ 哲
	認知症（老年精神疾患）治療研究センター長	カサヌキ 笠貫	コウジ 浩史
	統合失調症治療センター長 神経精神科副部長、精神療法・ストレスセンター副センター長	アンドウ 安藤	クミコ 久美子
	リハビリテーションセンター参与	ワタナベ 渡辺	サトシ 敏
	感染症センター長 感染制御部副部長	クニシマ 國島	ヒロユキ 広之
	夜間急患センター長	ヨシダ 吉田	トオル 徹
力診療部門協	健康診断センター長	ハラ 原	マサシ 正壽
	臨床検査部長	ノブオカ 信岡	サチヒコ 祐彦
	臨床検査部参与 臨床検査部副部長	ヤマザキ 山崎	サトシ 哲

2020年度 管理運営会議 出席者

組織図上の役職等		氏名	
診療協力部門	超音波センター長	イズモ 出雲	マサキ 昌樹
	画像センター参与 画像センター副センター長	ヨシカワ 吉川	タツオ 達生
	放射線治療センター長 放射線科副部長	ナカムラ 中村	ナオキ 直樹
	中央手術部 麻酔科副部長	サカモト 坂本	ミキ 三樹
	臨床検査部技術技術課長（輸血部）	イノ 井野	ちさと
	クリニカルエンジニア部参与兼技術課長	シミズ 清水	トオル 徹
医療支援管理部門	薬剤部参与	サカウエ 坂上	イツコウ 逸孝
	栄養部長	シバタ 柴田	みち
	メディカルサポートセンター参事	コバヤシ 小林	ケイ 圭
	治験管理室長	マツモト 松本	ナオキ 直樹
	治験管理室課長	オオタ 太田	ナオキ 直樹
	放射線管理室長	マエハラ 前原	ヨシアキ 善昭
	移植医療支援室長 腎泌尿器外科副部長	ササキ 佐々木	ヒデオ 秀郎
	診療記録管理室課長	モロト 諸戸	マユミ 真由美
事務部門	事務部長	ネヅ 根津	ヤスヒロ 保廣
	事務部次長	アンドウ 安藤	あゆ
	管理課課長	クサナギ 草薙	タクヤ 拓也
	医事課課長	コイソ 小磯	アキオ 晃生
その他事務部門	病院経営管理室長	カワセ 川瀬	ヒロカズ 弘一
	総務部課長	オクシマ 奥島	ヒデアキ 英明
	人事部部長	スガハラ 菅原	トシヤ 敏弥
	財務部財務課課長	ムラタ 村田	タケン 武司
	施設部参事兼施設部施設環境課課長	コジマ 小島	コウジ 浩二
	調達部参事兼購買・物品管理課課長	ソネタ 曽根田	マサヒロ 昌弘
	IT戦略推進室参与兼室長事務取扱	シモヒラ 下平	ヒデフミ 秀文
	臨床研修センター主幹	セキ 関	コウジ 浩治
	看護師特定行為研修センター副センター長	タカノ 鷹野	イクヨ 郁与

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 評価機関名：公益財団法人 日本医療機能評価機構 評価時期：平成28年11月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページにおける情報発信。病院案内のページに先進医療や専門外来を掲載。 講演会開催や、地域医療施設へパンフレット「地域の輪」を配布。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 診療科間において、診療依頼票による書面での依頼を行う。 合同カンファレンスの実施や電子カルテにより情報共有し、連携して対応に当たっている。 センター化することにより、複数科でのチーム医療を実施。	

(様式第 8)

聖医大管 第 321 号
令和 2 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 聖マリアン
理事長 明石 勝也

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

日本病院会 医療安全管理者研修 2 名
日本医療安全学会認定 「高度医療安全推進者」資格 1 名

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（18）名、専任（-）名、兼任（8）名
うち医師：専従（1）名、専任（-）名、兼任（5）名
うち薬剤師：専従（1）名、専任（-）名、兼任（-）名
うち看護師：専従（3）名、専任（-）名、兼任（1）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

2020 年 4 月医師 1 名を専従医師として配置。